

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ニホンイカダイガク 学校法人 日本医科大学									
フリガナ大学の名称	ニホンイカダイガク 日本医科大学 (Nippon Medical School)									
大学本部の位置	東京都文京区千駄木一丁目1番5号									
大学の目的	本学の学是は「克己殉公」、すなわち“我が身を捨てて、広く人々のために尽くす”ことであり、教育理念として「愛と研究心を有する質の高い医師、医学者の育成」を掲げ、多くの臨床医、医学研究者、国政従事者を輩出してきた。 この学是、理念、そして歴史ある私立医科大学という特性を基盤に、最新の医学を教育・研究し、広く国際的な視野に立った見識と豊かな人間性を備えた医師、医学研究者の養成に努め、人々の健康維持・増進、社会に貢献することを使命と考える。									
新設学部等の目的	令和5年11月27日付「令和7年度の医学部臨時定員の暫定的な維持について（通知）」（文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長）に基づき、収容定員を増加する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	医学部医学科の今回の15名の入学定員の増員は、令和7年度のみ臨時定員増である。 また、医学部医学科の令和6年度における収容定員は746名である。
	医学部医学科	6年	125 (110)	—	675 (660)	学士（医学）	医学関係	令和7年4月 第1年次	東京都文京区千駄木一丁目1番5号	
	計		125 (110)		675 (660)					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	該当なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	—	講義	演習	実験・実習	計	— 単位				
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 （助手を除く）		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新設	医学部医学科	79人 (79)	46人 (46)	59人 (59)	38人 (38)	222人 (225)	0人 (0)	852人 (852)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 105人	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	79 (79)	46 (46)	59 (59)	38 (38)	222 (222)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	79 (79)	46 (46)	59 (59)	38 (38)	222 (222)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	79 (79)	46 (46)	59 (59)	38 (38)	222 (222)				
分	計	79 (79)	46 (46)	59 (59)	38 (38)	222 (222)	0 (0)	852 (852)		

既 設 分	該当なし					-	-
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	小計（a～b）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	計（a～d）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
計	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
合計	79 (79)	46 (46)	59 (59)	38 (38)	222 (222)	0 (0)	852 (852)
職 種	専 属				そ の 他		計
事 務 職 員	696 人 (696)				0 人 (0)		696 人 (696)
技 術 職 員	31 (31)				0 (0)		31 (31)
図 書 館 職 員	10 (10)				0 (0)		10 (10)
そ の 他 の 職 員	4,502 (4,502)				0 (0)		4,502 (4,502)
指 導 補 助 者	0 (0)				0 (0)		0 (0)
計	5,239 (5,239)				0 (0)		5,239 (5,239)
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計	
	校 舎 敷 地	47,183㎡	40,110㎡	134,434㎡		221,727㎡	
	そ の 他	318,866㎡	0㎡	0㎡		318,866㎡	
	合 計	366,049㎡	40,110㎡	134,434㎡		540,593㎡	
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		
	27,606㎡ (27,606㎡)	4,936㎡ (4,936㎡)	26,688㎡ (26,688㎡)		59,230㎡ (59,230㎡)		
教 室 ・ 教 員 研 究 室	教 室	88室	教 員 研 究 室		114室		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点
	医学部医学科	116,803 [48,604] (116,803 [48,604])	43,842 [36,108] (43,842 [36,108])	16,880 [12,576] (16,880 [12,576])	12,253 [10,548] (12,253 [10,548])	9,299 (9,299)	- (-)
	計	116,803 [48,604] (116,803 [48,604])	43,842 [36,108] (43,842 [36,108])	16,880 [12,576] (16,880 [12,576])	12,253 [10,548] (12,253 [10,548])	9,299 (9,299)	- (-)
	スポーツ施設等	スポーツ施設		講堂		厚生補導施設	
	1,774㎡		335㎡		4,727㎡		

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	教員1人当り研究費等		391千円	391千円	391千円	391千円	391千円	391千円	
	共同研究費等		80,000千円	80,000千円	80,000千円	80,000千円	80,000千円	80,000千円	
	図書購入費	157,684千円	158,542千円	158,542千円	158,542千円	158,542千円	158,542千円	158,542千円	
	設備購入費	350,230千円	466,164千円	466,164千円	466,164千円	466,164千円	466,164千円	466,164千円	
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
			4,500千円	3,500千円	3,500千円	3,500千円	3,500千円	3,500千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、寄付金収入、雑収入等							
既設大学等の状況	大学等の名称	日本医科大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
	医学部 医学科	年	人	年次人	人	学士(医学)	倍	昭和27年度	東京都文京区千駄木一丁目1番5号
		6	125	—	746		1.01		
	大学等の名称	日本医科大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
	医学研究科 医学専攻博士課程	年	人	年次人	人	博士(医学)	倍	平成28年度	東京都文京区千駄木一丁目1番5号
		4	70	—	280		0.82		
	大学等の名称	日本獣医生命科学大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
	獣医学部 獣医学科	年	人	年次人	人	学士(獣医学)	倍	昭和24年度	東京都武蔵野市境南町一丁目7番1号
		6	80	—	480		1.03		
	獣医学部 獣医保健看護学科	4	100	若干名	400	学士(獣医保健看護学)	0.99	平成17年度	〃
	応用生命科学部 動物科学科	4	100	若干名	400	学士(動物科学)	1.00	平成15年度	〃
	応用生命科学部 食品科学科	4	70	若干名	300	学士(食品科学)	0.74	平成15年度	〃
	大学等の名称	日本獣医生命科学大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
	獣医生命科学部 獣医学専攻博士課程	4	8	—	32	博士(獣医学)	0.65	昭和37年度	東京都武蔵野市境南町一丁目7番1号
獣医生命科学部 獣医保健看護学専攻 博士前期課程	2	5	—	10	修士(獣医保健看護学)	1.80	平成21年度	〃	
獣医生命科学部 獣医保健看護学専攻 博士後期課程	3	2	—	6	博士(獣医保健看護学)	0.83	平成23年度	〃	
獣医生命科学部 応用生命科学専攻 博士前期課程	2	7	—	14	修士(応用生命科学)	1.07	平成17年度	〃	
獣医生命科学部 応用生命科学専攻 博士後期課程	3	2	—	6	博士(応用生命科学)	0.50	平成20年度	〃	
	名称 : 日本医科大学付属病院 目的 : 教育・研究・診療 所在地 : 東京都文京区千駄木一丁目1番5号 設置年月 : 明治43年11月 規模等 : 土地17,979.40㎡、建物77,308.97㎡ 名称 : 日本医科大学腎クリニック 目的 : 研究・診療 所在地 : 東京都文京区本駒込一丁目7番15号 設置年月 : 平成9年2月 規模等 : 建物518.55㎡ (賃借建物のため土地面積記載なし)								

附属施設の概要	名称 :	日本医科大学呼吸ケアクリニック
	目的 :	教育・研究・診療
	所在地 :	東京都千代田区九段南四丁目7番15号
	設置年月 :	平成15年11月
	規模等 :	建物536.35㎡ (賃借建物のため土地面積記載なし)
	名称 :	日本医科大学健診医療センター
	目的 :	教育・研究・診療
	所在地 :	東京都文京区千駄木一丁目12番15号
	設置年月 :	平成18年2月
	規模等 :	土地1,233.20㎡ (一部(943.26㎡)借用)、建物2,476.23㎡
名称 :	日本医科大学ワクチン療法研究施設	
目的 :	研究・診療	
所在地 :	東京都文京区千駄木一丁目1番5号	
設置年月 :	昭和47年4月	
規模等 :	土地 日本医科大学・付属病院内、 建物 日本医科大学面積の内42.34㎡、付属病院面積の内119.54㎡を使用	
名称 :	日本医科大学武蔵小杉病院	
目的 :	教育・研究・診療	
所在地 :	神奈川県川崎市中原区小杉町一丁目383番地	
設置年月 :	昭和12年6月	
規模等 :	土地13,889.00㎡、建物32,611.86㎡	
名称 :	日本医科大学多摩永山病院	
目的 :	教育・研究・診療	
所在地 :	東京都多摩市永山一丁目7番地1	
設置年月 :	昭和52年7月	
規模等 :	土地16,091.93㎡、建物24,141.09㎡	
名称 :	日本医科大学千葉北総病院	
目的 :	教育・研究・診療	
所在地 :	千葉県印西市鎌苅1715番地	
設置年月 :	平成6年1月	
規模等 :	土地283,272.30㎡ (一部(3,233.43㎡)借用)、建物59,398.78㎡	
名称 :	日本医科大学先端医学研究所	
目的 :	研究	
所在地 :	東京都文京区根津一丁目25番16号	
設置年月 :	昭和43年4月	
規模等 :	土地 日本医科大学内、建物 日本医科大学面積の内917.95㎡を使用	

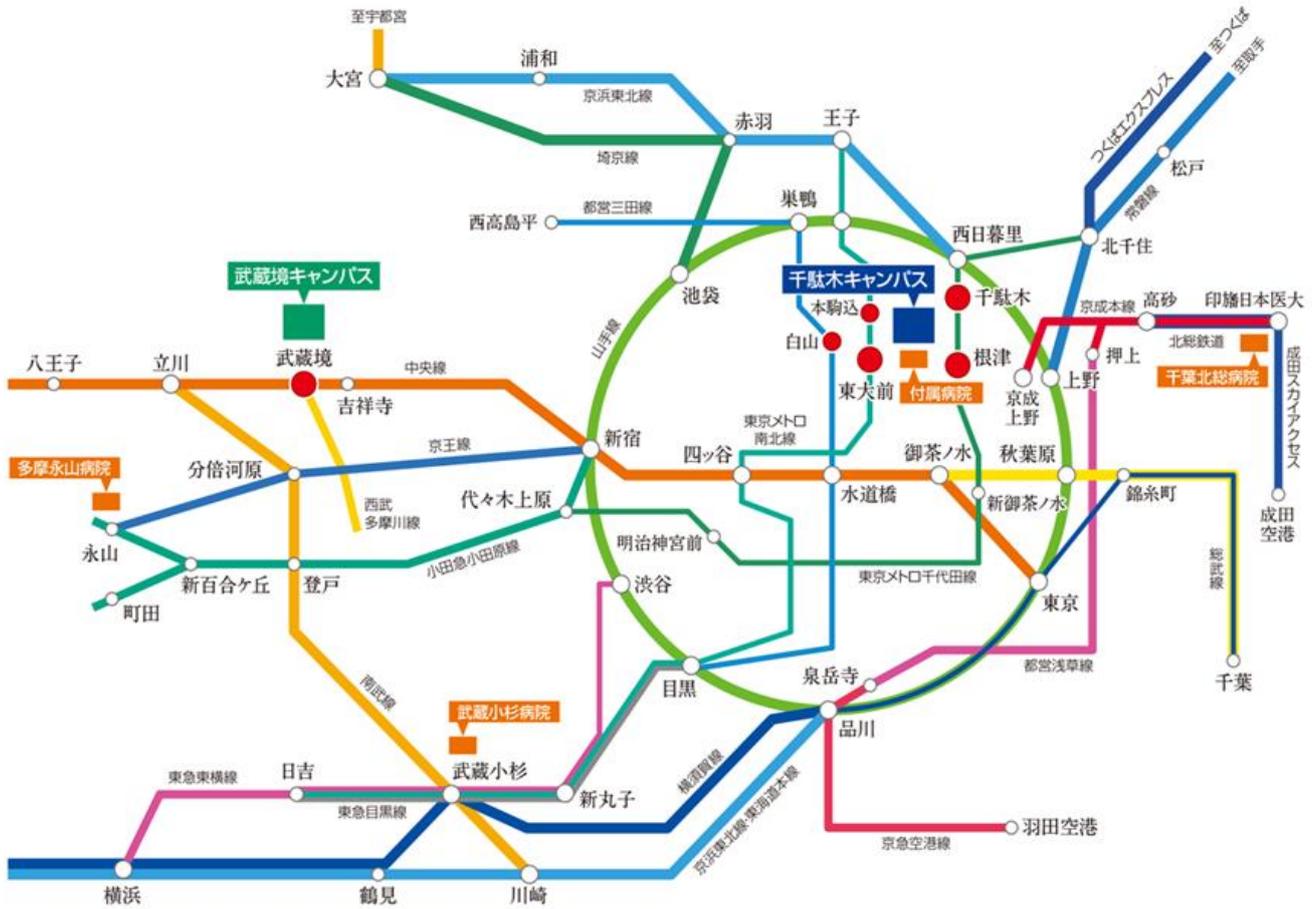
(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人日本医科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
日本医科大学				日本医科大学				
医学部				医学部				
医学科	125	-	675	医学科	<u>125</u>	-	<u>675</u>	定員変更
計	125	-	675	計	<u>125</u>	-	<u>675</u>	
日本医科大学大学院				日本医科大学大学院				
医学研究科				医学研究科				
医学専攻博士課程	70	-	280	医学専攻博士課程	70	-	280	
計	70	-	280	計	70	-	280	
日本獣医生命科学大学				日本獣医生命科学大学				
獣医学部				獣医学部				
獣医学科	80	-	480	獣医学科	80	-	480	
獣医保健看護学科	100	-	400	獣医保健看護学科	100	-	400	
応用生命科学部				応用生命科学部				
動物科学科	100	-	400	動物科学科	100	-	400	
食品科学科	70	-	280	食品科学科	70	-	280	
計	350	-	1560	計	350	-	1560	
日本獣医生命科学大学大学院				日本獣医生命科学大学大学院				
獣医生命科学研究科				獣医生命科学研究科				
獣医学専攻博士課程	8	-	32	獣医学専攻博士課程	8	-	32	
獣医保健看護学専攻博士前期課程	5	-	10	獣医保健看護学専攻博士前期課程	5	-	10	
獣医保健看護学専攻博士後期課程	2	-	6	獣医保健看護学専攻博士後期課程	2	-	6	
応用生命科学専攻博士前期課程	7	-	14	応用生命科学専攻博士前期課程	7	-	14	
応用生命科学専攻博士後期課程	2	-	6	応用生命科学専攻博士後期課程	2	-	6	
計	24	-	68	計	24	-	68	
日本医科大学看護専門学校				日本医科大学看護専門学校				
看護学科(医療専門課程)	80	-	240	看護学科(医療専門課程)	80	-	240	
計	80	-	240	計	80	-	240	

1. 都道府県内における位置関係の図面



日本医科大学
千駄木キャンパス

所在地：東京都文京区千駄木1-1-5
交通：東京メトロ千代田線 千駄木駅及び根津駅より徒歩8分
東京メトロ南北線 東大前駅より徒歩8分

↑ ↓ 徒歩 8分

東大前駅

↑ ↓ 東京メトロ南北線 9分

四ツ谷駅

↑ ↓ JR中央線 24分

武蔵境駅

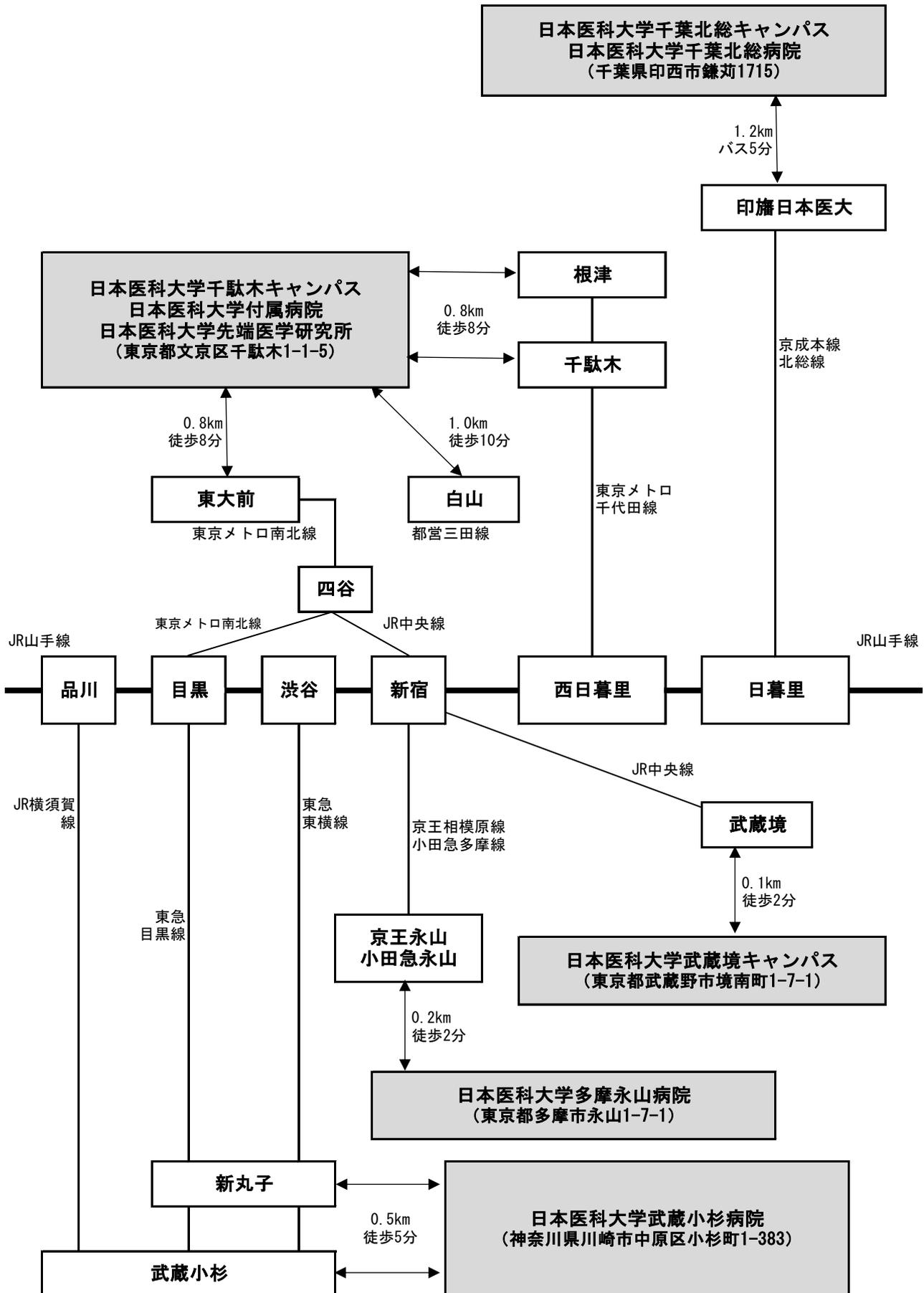
↑ ↓ 徒歩 2分

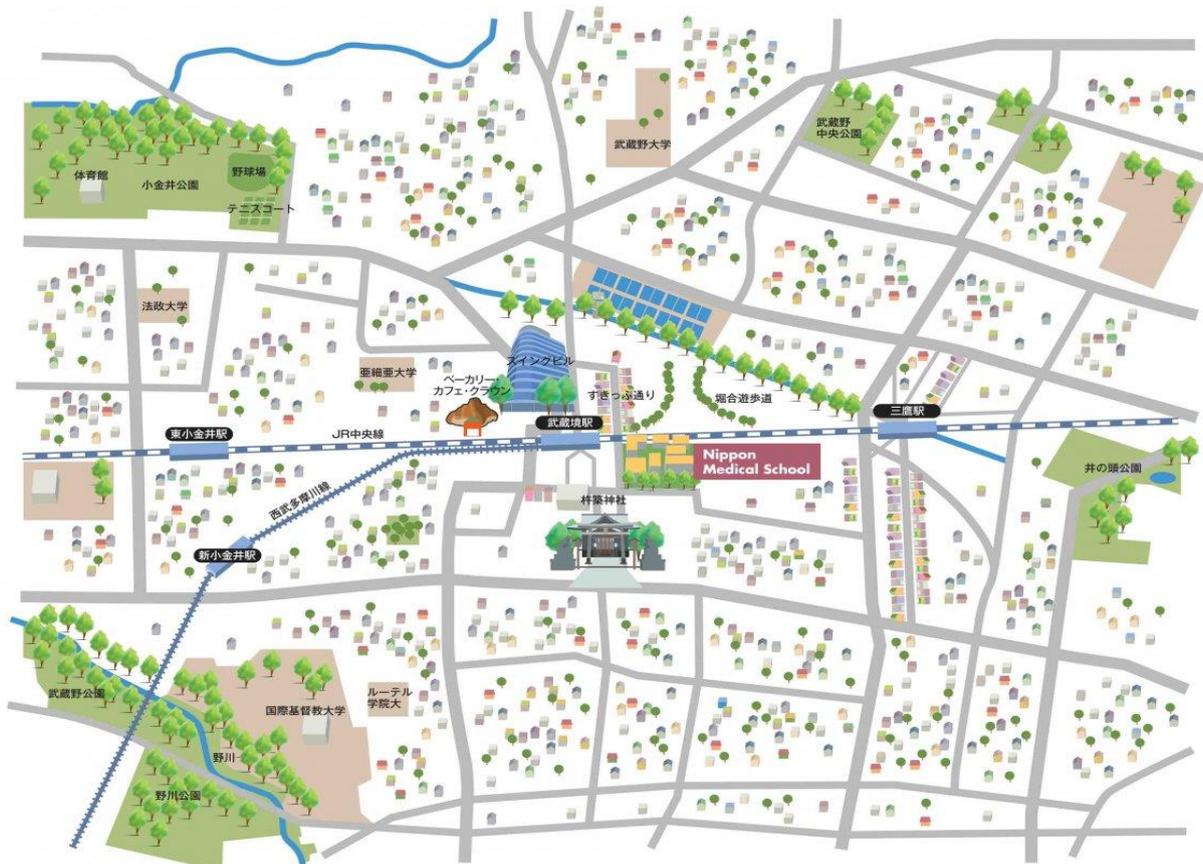
日本医科大学
武蔵境キャンパス

所在地：東京都武蔵野市境南町1-7-1
交通：JR中央線 武蔵境駅より徒歩2分

所要時間：約50分
距離：25km

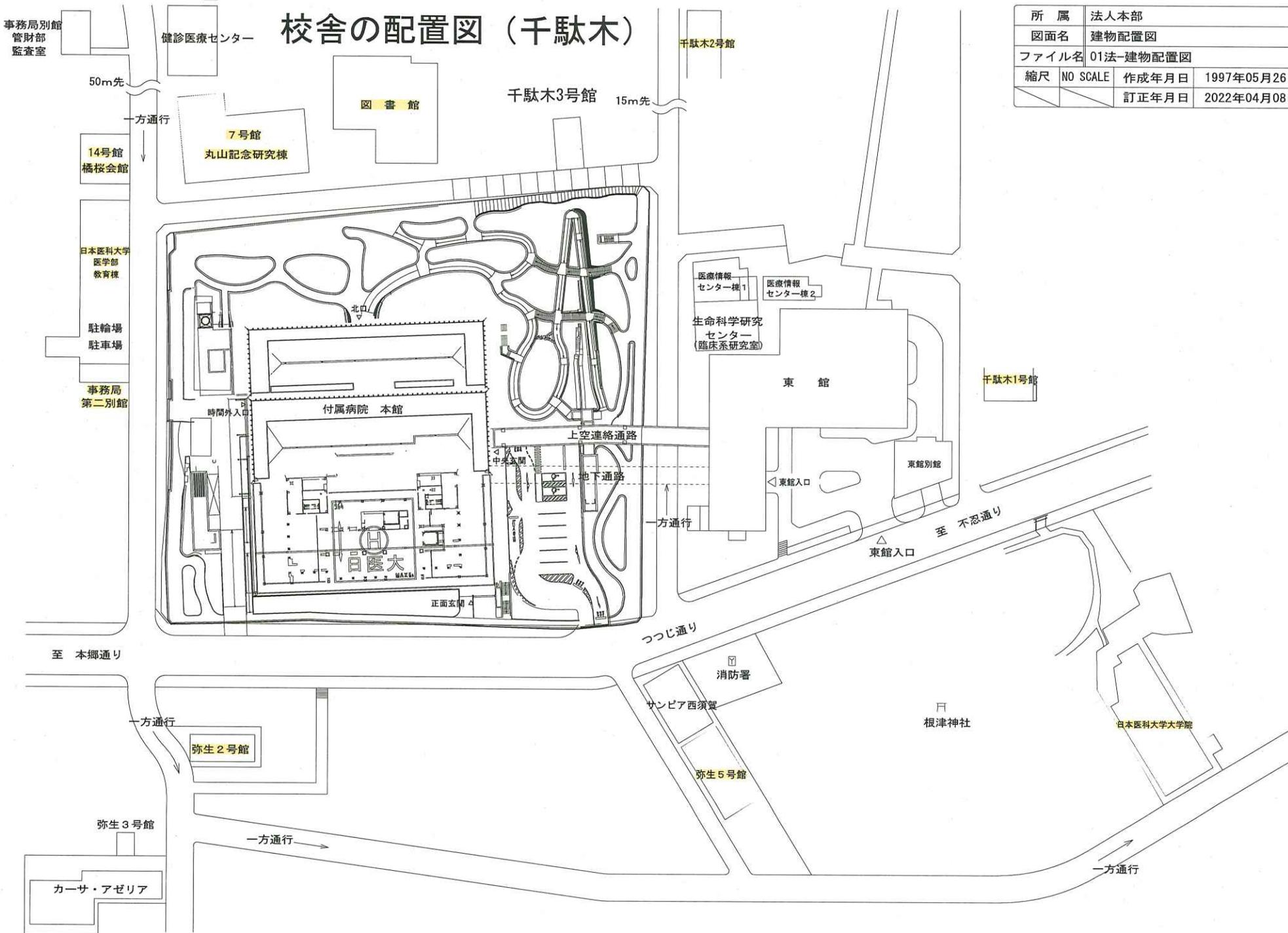
2. 最寄駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面





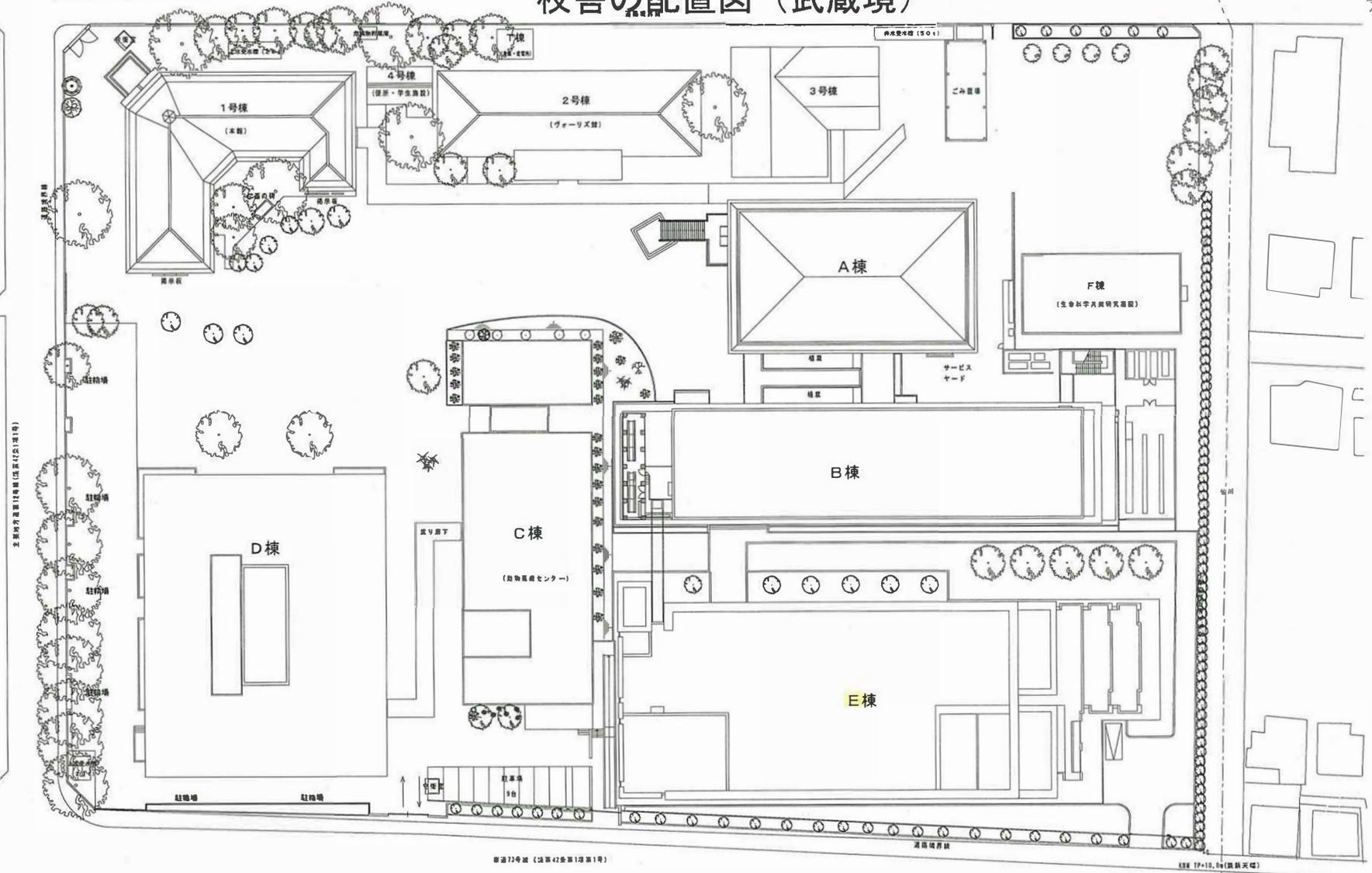
□ 医大サービス

校舎の配置図 (千駄木)



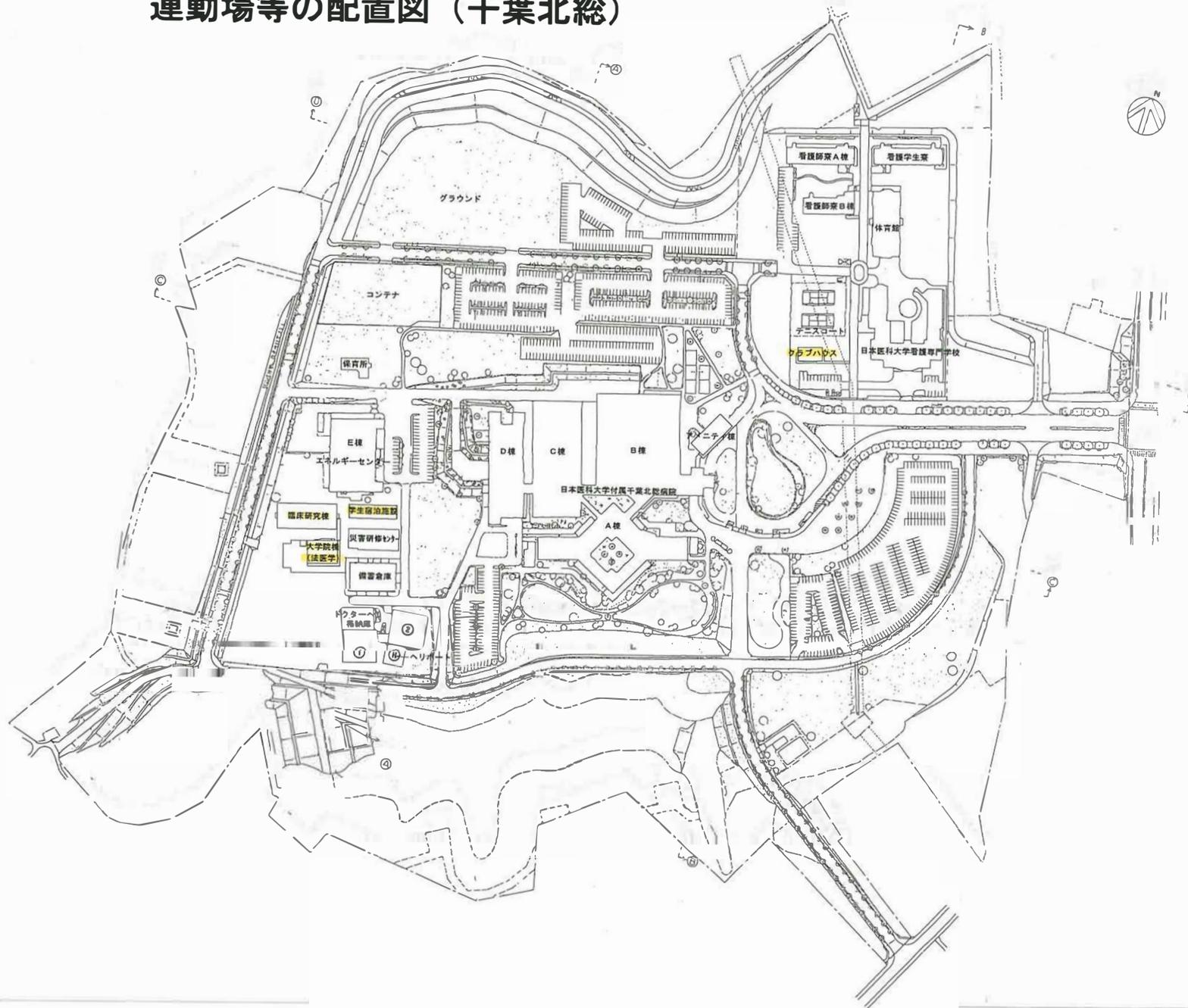
所 属	法人本部		
図面名	建物配置図		
ファイル名	01法-建物配置図		
縮尺	NO SCALE	作成年月日	1997年05月26日
		訂正年月日	2022年04月08日

校舎の配置図 (武蔵境)



所 属	日本獣医生命科学大学 第一校舎		
建物名称	敷地配置図		
ファイル名	04獣-第一校舎敷地配置図 .jww		
縮 尺	1/600	作成年月日	2015年04月01日
作 図		確認年月日	2015年04月01日

運動場等の配置図（千葉北総）



【凡 例】	
記号	名称
—	開発区域

所 属	千葉北総病院
図面名	敷地現況図
ファイル名	13北-敷地現況図
縮尺	1/3000
作成年月日	2008年06月14日
訂正年月日	2020年05月14日

第1章 総則

(目的・使命)

第1条 日本医科大学医学部(以下「本学」という。)は、学術の中心として広く知識を授けるとともに、深く医学を研究教授し、知的道徳的応用的能力を展開させることを目的とする。

2 前項の目的を達するために、広く医学を世界に求め、堅実公正な医師を育成することを使命とする。

(自己評価等)

第2条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、自己点検委員会を設置し、本学における教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行うものとする。

2 自己点検委員会の組織等に関する事項については、別に定める。

(組織)

第3条 本学に医学科を置き、6年の一貫教育を行う。

(収容定員)

第4条 収容定員は、入学定員110名、総定員660名とする。

(修業年限・在学年限)

第5条 修業年限は6年とする。ただし、第17条の定めにより編入学した者については、修業年限を5年とする。

2 在学年限は、前項の規定する修業年限の2倍を超えることはできない。

3 同一学年の在学年限は原則として2年とし、学長が特別の事情があると認める者については、医学部教授会(以下「教授会」という。)の審議を経て、1年に限り延長を認める。

第2章 授業科目・授業時間及び単位数

(授業科目)

第6条 授業科目は大別して縦断型科目及び累積型科目とする。

2 授業科目とその授業時数は別表1に定めるところによる。

3 本学における学科目は別表2に定めるところによる。

第3章 履修方法及び修了・卒業の認定

(履修方法・授業日数・単位の計算方法)

第7条 授業科目の履修は別表1に従い、所定の授業日数(又は単位数)を履修するものとする。

- 2 各年次の授業日数は、学年末試験、臨床実習期を含み、年間 37 週を原則とする。
- 3 授業科目の単位の計算方法は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によるものとする。
 - (1) 講義については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。
 - (2) 演習については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。
 - (3) 実験・実習及び実技については、45 時間の授業をもって 1 単位とする。

(授業科目修了の認定)

第 8 条 授業科目修了の認定は、その科目の目標において求める知識、技能、態度等の修得の程度の評価に基づき、教授会の審議を経て、学長がこれを決定する。

- 2 前項の評価は、試験及び実習における観察等によって行う。
- 3 成績の評価は、秀・優・良・可・不可の 5 種類とし、秀・優・良・可を合格、不可を不合格とする。

(秀 90 点以上、優 80 点以上、良 70 点以上、可 60 点以上、不可 59 点以下)

- 4 各授業科目(臨床実習を除く。)の受験資格は、その授業科目の規定の授業時数(講義と実習の合計時数)及び実習時数のそれぞれについて 3 分の 2 以上出席した者に与える。
- 5 必修科目に受験資格のない者は、その授業科目を再び履修しなければならない。
- 6 臨床実習生となるための資格については、別に定める。
- 7 試験及びこれに関連する事項は、別に定める。

(他大学等での履修認定)

第 9 条 教育上有益であると認めるときは、本学の定める国内外の他の大学、病院又は本学が認める関連施設において履修した授業科目について修得した単位を、60 単位を超えない範囲で、本学において修得したものと認定することができる。

- 2 第 17 条により入学した者が、本学入学前に修得した単位の認定については、教授会の審議を経て学長が決定する。

(卒業の認定)

第 10 条 第 5 条に定めた修業年限以上在学し、全ての授業科目修了が認定され、総合試験に合格した者に対して、学長は教授会の審議を経て卒業を認定する。

(卒業証書及び学位の授与)

第 11 条 卒業の認定を受けた者は、教授会の審議を経て、学長が卒業証書及び学士の学位を授与する。

- 2 前項の学位に付記する専攻分野の名称は、医学とする。
- 3 本学において授与する卒業証書・学位記の様式は、別記様式 1 のとおりとする。

第 4 章 学年・学期及び休業日

(学年・学期)

第12条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終了するものとし、これを次の学期に分ける。

第1学期 4月1日から8月31日まで

第2学期 9月1日から12月31日まで

第3学期 翌年1月1日から3月31日まで

(休業日)

第13条 休業日(授業を行わない日)及び休業期間(授業を行わない期間)は次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する日

(3) 創立記念日 4月15日

(4) 春季休業 3月21日から4月7日まで

(5) 夏季休業 7月19日から8月31日まで

(6) 冬季休業 12月21日から翌年1月4日まで

2 前項に定める他、学長は臨時の休業日を定めることができる。

3 学長が必要と認めたときは、休業日及び休業期間を変更することがある。

第5章 入学・休学・退学

(入学時期)

第14条 入学は学年の始めとする。

(入学資格)

第15条 本学に入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者

(3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験に合格した者(大学入学資格検定に合格した者を含む。)

(8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

(転入学)

第 16 条 他の大学医学部又は医科大学の学生で、その大学長の許可を得て、本学に転入学を希望する者は、欠員のある場合に限り、試験の上入学を許可することがある。

(編入学)

第 17 条 本学に編入学を希望する者については、選考のうえ編入学を許可することができる。

2 この場合の入学年次は、第 2 年次とする。

(入学の出願)

第 18 条 本学への入学を志願する者は、入学願書に所定の受験料 60,000 円及び別に定める書類を添えて指定の期日までに願出しなければならない。

(入学選考)

第 19 条 入学の選考は、学力及び人物について行う。

(入学手続)

第 20 条 入学の選考に合格したものは、指定の期日までに、誓約書、保証書、卒業証明書、住民票その他所定の書類を提出するとともに、入学金 1,000,000 円及び第 30 条による学費を納付しなければならない。

2 既納の入学金及び学費は返戻しない。ただし、所定の期日までに入学辞退を申し出た場合は、既に納めた学費を返還する。

3 第 1 項の手続をしない者は、入学を許可しない。

(入学許可)

第 21 条 前条の手続を完了した者は、教授会の審議を経て、学長が入学を許可し、学籍に登録する。

(本籍・住所・姓名変更)

第 22 条 学生及び保証人が本籍又は住所等を変更した場合は、直ちに届出なければならない。

2 学生が姓名を変更した場合には、住民票記載事項証明書を添えなければならない。

(休学)

第 23 条 疾病その他止むを得ない事由により、2 ヶ月以上修学することができない者は、休学願に保証人連署の上、その事由を証明する書類を添えて学長に願出するものとし、許可を得なければならない。

2 疾病その他の事由により修学することが不相当と認められる者に対しては、学長は休学を命ずることがある。

(休学期間)

第 24 条 休学は 2 年以内とする。ただし、前条第 2 項の場合に限り、更に 1 年を限度として延長することができる。

2 休学期間は通算して 4 年以内とする。

3 休学期間は在学期間に算入しない。

(復学)

第 25 条 休学期間中にその事由が消滅して復学しようとする者は、復学願に保証人連署の上学長に願い出るものとし、許可を得なければならない。ただし、当該休学が疾病による場合は医師の診断書を添えなければならない。

(退学)

第 26 条 退学しようとする者は、退学願に保証人連署の上学長に願い出るものとし、許可を得なければならない。

(再入学)

第 27 条 退学した者で、再入学を願い出る者は、学長が原学年又はそれ以下に再入学を許可することがある。

(除籍)

第 28 条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

- (1) 成業の見込みのない者
- (2) 第 5 条の在学年限をこえた者
- (3) 第 24 条第 1 項又は第 2 項にそれぞれ定める期間をこえて、なお復学できない者
- (4) 学費の納入を督促された後、30 日以上納付しない者
- (5) 1 年以上行方不明の者
- (6) 死亡届が提出された者

(転学)

第 29 条 他の大学へ転学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

第 6 章 学費

(学費)

第 30 条 学生が納付しなければならない学費は、授業料及び施設整備費とする。

(金額・納付時期・学費の額の変更)

第 31 条 学費の金額及び納付時期は、これを次のとおり定める。

- (1) 授業料 2,500,000 円(年額)
施設整備費 1,000,000 円(年額)
ただし、平成 30 年度入学者から適用する。
 - (2) 学費は、毎年 4 月 30 日までに納付するものとする。
ただし、第 20 条第 1 項の入学手続をする際に納付すべき学費の納付期限は、同条同項により別途指定する期日までとする。
 - (3) 止むを得ない理由の願い出によっては、期間を定めて分納を認めることができる。
 - (4) 学則その他の規定に特別の定めのある場合を除き、既納の学費は返戻しない。
- 2 在学中、授業料その他について変更があった場合には新たに定められた金額を納付するものとする。
 - 3 学年の中途において卒業する見込みの者の納付する学費の取扱いは、別に定める。

(特待生の学費)

第 32 条 入学試験の成績が特に優秀で、人物に優れている者を特待生として、学費の一部を免除することができる。

2 特待生に関する事項は別に定める。

(休学中の学費)

第 33 条 休学中の者についての学費は減免することがある。

2 休学中の者の学費の減免に関する事項は、別に定める。

(退学者の学費)

第 34 条 退学する者は、その年度における学費を納付しなければならない。

第 7 章 聴講生

(聴講生)

第 35 条 本学所定の授業科目のうち 1 科目又は数科目について聴講を希望する者がある時は、教育研究に支障がない限り、学長が、聴講生として入学を許可することがある。

2 聴講生に関する取扱いは別に定める。

第 8 章 公開講座

(公開講座)

第 36 条 本学に公開講座を設けることがある。

第 9 章 賞罰

(表彰)

第 37 条 品行学業ともに優秀な者を、表彰することがある。

2 表彰に関する事項については、別に定める。

(懲戒)

第 38 条 学則その他の規定に違反し、又は学生としての本分にもとる行為ありと認められるものは懲戒に処する。

2 懲戒は、訓告、停学及び退学とする。

3 懲戒の手続きについては、別に定める。

第 39 条 表彰及び懲戒は、学長がこれを行う。

第 10 章 職員組織

(職員組織)

第 40 条 本学の職員組織として学長、医学部長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他必要な職員を置く。

2 職員組織の職制及び定員に関しては、別に定める。

第 11 章 教授会

(教授会)

第 41 条 本学に、教授会を置く。

2 教授会は、学長及び専任教授をもって組織する。

3 教授会は、学長がこれを招集し、その議長となる。

(役割)

第 42 条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学及び卒業

(2) 学位の授与

(3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び医学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長又は医学部長の求めに応じ、意見を述べることができる。

(教授会規則)

第 43 条 教授会の運営に関する規則は別に定める。

第 12 章 厚生補導

(厚生補導)

第 44 条 学生の厚生補導に関する事項を取扱うために学生部を設ける。

第 13 章 学則の改廃

(学則の改廃)

第 45 条 本学則の改廃は、学長を経て、理事会の議決を必要とする。

付 則

この学則は、昭和 30 年 4 月 1 日より施行する。

昭和 41 年 4 月 1 日 一部改正(学部の入学定員 80 名から 100 名に変更した)

昭和 49 年 4 月 1 日 一部改正(学部の実習費を設定した)

昭和 54 年 1 月 10 日 一部改正(学部の授業料、実習費、施設整備費を学費としてスライド制を導入した)

昭和 57 年 1 月 10 日 一部改正(学部の教育充実費を設定した)

昭和 60 年 4 月 1 日 一部改正(全面的に見直した)

昭和 62 年 4 月 1 日 一部改正(受験資格の取扱いを一部変更した)

ただし、第 9 条第 3 項第 1 号の改正規定は、昭和 62 年度入学者から適用し、昭和 61 年度以前の入学者は従前のおりとする。

平成 2 年 4 月 1 日 一部改正(講座を新設し、講座の名称を一部変更した)

平成 3 年 4 月 1 日 一部改正(授業料等のただし書きを挿入した)

平成 3 年 7 月 1 日 一部改正(大学設置基準、学位規則の改正等により一部改正した)

ただし、第 6 条、第 14 条、第 18 条及び第 29 条の改正規定は平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成5年4月1日から施行する。(大学設置基準の改正により自己評価等を設定した)

附 則

この学則は、平成6年4月1日から施行する。(ただし、基礎科学の所定単位については平成元年度以前の入学者は従前どおりとする。入学手続上の戸籍抄本を住民票に変更した。また第7章外国人学生全文を削除した)

附 則

この学則は、平成6年11月1日から施行する。(日本医科大学組織規則制定により、医学部主任から医学部長に職名を変更した)

附 則

この学則は、平成7年4月1日から施行する。(学則の改廃は理事会の承認から議決を必要とするに変更した)

附 則

この学則は、平成8年4月1日から施行する。(姓名変更上の戸籍抄本を住民票記載事項証明書に変更した。また第35条第3項の懲戒を退学に変更した)

附 則

この学則は、平成9年4月1日から施行する。(基礎科学における所定単位を変更した。また教育充実費を6年間の分納に変更した)

附 則

この学則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成11年4月1日から施行する。(基礎科学における所定単位を変更した。ただし、基礎科学の所定単位については、平成10年度以前の入学者は従前どおりとする。)

附 則

この学則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成13年4月1日から施行する。
- 2 第5条第3項の改正事項は、平成13年度入学者から適用する。

附 則

この学則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。(基礎科学における所定単位を変更した。ただし、基礎科学の所定単位については、平成 13 年度以前の入学者は従前どおりとする。)

附 則

この学則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。(別表 1 の 3・4 年授業時限配当表の診断学・検査医学を基本臨床実習に改め、5・6 年授業時限配当表を新たに作成した。これに伴い、別表 3 のコース名称診断学・検査医学を基本臨床実習に改める。)

附 則

この学則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。(別表 1 の 1 年授業時限配当表の選択科目 A の医用物理学を削除し、備考欄に入学試験で「生物」を受験しなかった者は生物系の選択科目(注 5)を履修することとし、欄外(注 5)に生物系選択科目を記載する。)

附 則

この学則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。(基礎科学の所定単位については、平成 16 年度以前の入学者は従前どおりとする。)

附 則

この学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。(基礎科学の履修科目数及び所定単位については、平成 17 年度以前の入学者は従前どおりとする。)

附 則

この学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。(基礎科学の履修科目数及び所定単位については、平成 18 年度以前の入学者は従前どおりとする。)

附 則

この学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。(学部の入学定員 100 名から 110 名に変更した。)

附 則

この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。(学部の入学定員 110 名から 112 名に変更した。基礎科学の履修科目数及び所定単位については、平成 21 年度以前の入学者は従前どおりとする。)

附 則

この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。(学部の入学定員 112 名から 114 名に変更した。)

附 則

この学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 7 条第 2 項、第 13 条第 1 項の改正規定は、平成 26 年度入学者から適用し、平成 25 年度以前の入学者は従前どおりとする。

附 則

この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。(学部の入学定員 114 名から 116 名に変更した。)

附 則

この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。(学部の入学定員 116 名から 118 名に変更した。)

附 則

- 1 この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。(学部の入学定員 118 名(臨時定員 8 名含む)から 110 名(恒久定員)に変更した。)ただし、様式 1 については平成 30 年 3 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の第 4 条の規定にかかわらず、平成 30 年度から平成 36 年度までの収容定員は、次のとおりとする。

年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度
入学定員	121	121	110	110	110	110	110
総定員	697	704	700	696	690	682	671

附 則

- 1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 第4条の規定にかかわらず、令和2年度から令和8年度までの収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
入学定員	126	126	110	110	110	110	110
総定員	716	728	722	714	703	692	676

附 則

- 1 この学則は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 第4条の規定にかかわらず、令和4年度から令和9年度までの収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
入学定員	123	110	110	110	110	110
総定員	735	727	716	705	689	673

附 則

- 1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。ただし、第6条、第10条の改正規定は、令和5年度第1学年から学年進行で適用し、その他の学年については従前どおりとする。
- 2 第4条の規定にかかわらず、令和5年度から令和10年度までの収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
入学定員	125	110	110	110	110	110
総定員	742	731	720	704	688	675

附 則

- 1 この学則は、令和6年4月1日から施行する。ただし、第8条第3項の改正規定は、令和6年度第1学年から学年進行で適用する。
- 2 第4条の規定にかかわらず、令和6年度から令和11年度までの収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
入学定員	125	110	110	110	110	110
総定員	746	735	719	703	690	675

附 則

- 1 この学則は、令和7年4月1日から施行する。

2 第4条の規定にかかわらず、令和7年度から令和12年度までの収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
入学定員	125	110	110	110	110	110
総定員	750	734	718	705	690	675

別表1 授業時限配当表 [別紙参照]

別表2 学科目名 [別紙参照]

様式1 卒業証書・学位記様式 [別紙参照]

別表1
授業時限配当表(令和5年度入学者より適用)

区分	構成	学年		1年			2年			3年			4年			5年			6年			時 限 数		
		学期		I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III			
		試験科目	授業科目	全期	試験	全期	試験	全期	試験	全期	試験	全期	試験	全期	試験	全期	試験	全期	試験	全期	試験		全期	試験
縦断型	医学基礎プログラム	医学概論	医学概論1 ※	8	○																		8	
		医学概論2 ※		8																				8
		医学統合プログラム1	医学統合プログラム1		20	○																		20
		医学実地演習1	医学実地演習1		60	○																		60
		基礎科学特別講義	基礎科学特別講義		10	○																		10
	科学的探究	生命科学	生命科学1	生命科学1	8	○																		8
		行動科学	行動科学1	行動科学1	8	○																		8
		医療情報科学・データサイエンス	医療情報科学・データサイエンス1	医療情報科学・データサイエンス1	20	○																		20
		外国語教育	英語1	英語1	40	40	8	○																88
		教養教育	数学	数学	10	10	○																	20
累層型	生命科学基礎	スポーツ科学	スポーツ科学	18	18	○																	36	
		生命科学基礎	生命科学基礎	16	○																		16	
	生命科学概論	生命科学概論(生物)	生命科学概論(生物)	28	52	○																	80	
		生命科学概論(化学)	生命科学概論(化学)	32	16	○																		48
		生命科学概論(物理)	生命科学概論(物理)		16	○																		16
	個体の構成と機能	細胞の構造と機能	細胞の構造と機能			32	○																	32
		組織・臓器の発生・構造と機能1	組織・臓器の発生・構造と機能1			54	○																	54
			個体の正常構造と機能1			13	○																	13
	1年小計				232	⑤	262	⑥	107	④														601
	縦断型	医学基礎プログラム	医学統合プログラム2	医学統合プログラム2							12	○												12
医事法学			医事法学					10	○															10
医学実地演習2			医学実地演習2							25	○													25
医療福祉論・医療倫理学			医療福祉論 ※					10																10
医療倫理学 ※			医療倫理学 ※					11	4	○														15
科学的探究		科学的探究2	科学的探究2								10	○											10	
行動科学		行動科学2	行動科学2					13	7	○													20	
医療情報科学・データサイエンス		医療情報科学・データサイエンス2	医療情報科学・データサイエンス2					13	7	○													20	
外国語教育		英語2	英語2					8	7	○													15	
社会医学		社会医学1	疫学と予防医学 ※																					
	生活習慣とリスク ※																							
	社会医学2	社会・環境と健康 ※							23		37	○											60	
		死と法 ※							20		30	○											50	
		診療情報と諸証明書 ※																						
累層型	教養教育	統計学	統計学					15	○														15	
		運動生理学	運動生理学					10	○															10
	個体の構成と機能	組織・臓器の発生・構造と機能2	組織・臓器の発生・構造と機能2					42	○															42
		個体の正常構造と機能2	個体の正常構造と機能2					114	○															114
		刺激受容と情報伝達	刺激受容と情報伝達					60	30	○														90
	個体と反応	生体の構成物質	生体の構成物質						90	○														90
		恒常性の調節機構	恒常性の調節機構						14	○														14
		生体と微生物	生体と微生物						34	○														34
		免疫と生体防御	免疫と生体防御						19	○														19
		薬物・放射線と生体	薬物・放射線と生体						20		40	○												60
	病因と病態	病因と病態						22		21	○												43	
2年小計								306	⑥	237	⑦	107	②										650	
縦断型	医学基礎プログラム	医学統合プログラム3・生体システムの概念	医学統合プログラム3・生体システムの概念							36	○												36	
		医学実地演習3	医学実地演習3							7	○													7
		症候学・臨床医学概論	症候学 ※								40	○												40
		臨床医学概論 ※	臨床医学概論 ※								10	○												10
		国際保健	国際保健								5	○												5
	科学的探究	医学工学	医学工学							5	○												5	
	行動科学	科学的探究3	科学的探究3									240	○										240	
	医療情報科学・データサイエンス	行動科学3	行動科学3							5	○												5	
	外国語教育	医療情報科学・データサイエンス3	医療情報科学・データサイエンス3							7	○												7	
		英語3	英語3							7	○													7
累層型	器官の正常と異常・診断と治療	循環器	循環器								35	○											35	
		神経	神経								28	○												28
		呼吸器	呼吸器								28	○												28
		感染症	感染症							18	○													18
		腫瘍 ※	腫瘍 ※									8	○											8
		放射線 ※	放射線 ※									5	○											5
		消化器	消化器								35	○												35
		内分泌・代謝	内分泌・代謝									21	○											21
		腎・泌尿器	腎・泌尿器									28	○											28
		血液	血液									15	○											15
	アレルギー・膠原病	アレルギー・膠原病								15	○												15	
3年小計										268	⑬	366	⑮	92	⑤								726	

別表1

授業時限配当表(令和5年度入学者より適用)

区分	構成	学年		1年			2年			3年			4年			5年			6年			時限数					
		学期		I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III						
		試験科目	授業科目	全期	試験	全期	試験	全期	試験	全期	試験	全期	試験	全期	試験	全期	試験	全期	試験	全期	試験		全期	試験	全期	試験	
縦断型	医学基礎プログラム	救急医学	救急医学												18	○									18		
		形成・再生・移核	形成・再生・移核													10	○									10	
		医療の質と安全	医療安全 ※														2										2
			栄養 ※														2	○									2
			感染防御 ※														2										2
			プロフェッショナルリズム ※														2										2
		医学統合プログラム4	医学統合プログラム4													15	○									15	
		基本臨床実習	基本臨床実習														144	○								144	
		行動科学	行動科学4													3	○									3	
		医療情報科学・データサイエンス	医療情報科学・データサイエンス4													5	○									5	
外国語教育	英語4													5	○									5			
累積型	器官の正常と異常・診断と治療	生殖機能・妊娠と分娩・乳房	生殖機能・妊娠と分娩 ※												30	○									30		
		乳房 ※													3	○										3	
		成長と発達・加齢と老化・遺伝医療	成長と発達・加齢と老化 ※													10	○									10	
		遺伝医療 ※														2	○									2	
		運動・感覚・リハビリテーション	運動・感覚 ※													14	○									14	
		リハビリテーション ※														4	○									4	
		麻酔	麻酔													10	○									10	
		皮膚	皮膚													14	○									14	
		眼科	眼科													14	○									14	
		精神医学	精神医学													17	○									17	
頭頸部・耳鼻咽喉科	頭頸部・耳鼻咽喉科													14	○									14			
4年小計														196	⑤	144	①								340		
累積型	クリニカルクラークシップ(臨床実習)	内科学	循環器内科学 ※																								
		神経内科学 ※																									
		腎臓内科学 ※																									
		アレルギー・膠原病																									
		泌尿器内科学 ※																									
		血液内科学 ※																									
		消化器内科学 ※																									
		内分泌糖尿病代謝内科学 ※																									
		呼吸器内科学 ※																									
		外科学	消化器外科学 ※																								
		乳癌外科学 ※																									
		内分泌外科学 ※																									
		呼吸器外科学 ※																									
		心臓血管外科学 ※																									
		産婦人科学	産婦人科学																								
		小児科学	小児科学																								
		精神医学	精神医学																								
		放射線医学	放射線医学																								
		麻酔科学	麻酔科学																								
		泌尿器科学	泌尿器科学																								
		皮膚科学	皮膚科学																								
		形成外科学	形成外科学																								
		整形外科学	整形外科学																								
		脳神経外科学	脳神経外科学																								
		救急医学	救急医学																								
		集中治療医学	集中治療医学																								
		総合医療学	総合医療学																								
		地域医療	地域医療																								
		耳鼻咽喉科学	耳鼻咽喉科学																								
		眼科学	眼科学																								
病理学	病理学																										
リハビリテーション学	リハビリテーション学																										
選択クリニカルクラークシップ	選択クリニカルクラークシップ																										
クリニカルクラークシップ(臨床実習) 小計															759		1,419		⑥	264				2,442			
縦断型	医学基礎プログラム	臨床実習総括	クリニカルクラークシップ総括																					30			
	社会医学	社会医学3	社会医学総括																					20			
6年小計																								50			
1年合計				232	⑤	262	⑥	107	④															601			
2年合計								306	⑥	237	⑦	107	②											650			
3年合計										268	③	366	⑤	92	⑤									726			
4年合計														196	③	144	①	759						1,099			
5年合計																	1,419		⑧					1,419			
6年合計																							314	②			
総計																								4,809			

(1)本カリキュラムは、縦断型科目と累積型科目で区分される。

(2)縦断型科目は、医学基礎プログラム、科学的探究、行動科学、医療情報科学・データサイエンス、外国語教育、社会医学で構成される。

(3)累積型科目は、教養教育、生命科学基礎、生命科学概論、個体の構成と機能、個体と反応、器官の正常と異常・診断と治療、クリニカルクラークシップ(臨床実習)で構成される。

(4)授業は、学期、学年末試験を除き原則として年間34週行う。1学期13週、2学期は14週及び3学期は7週とする。

(5)数字は授業時限数を示す。(1時限=70分)

(6)○印は、試験時期を示す。

(7)※はユニット科目として位置づける。

注)生命科学基礎(物理、化学、生物)において、入学者選抜試験で選択しなかった科目を履修すること。

注)全て必修科目とする。

注)3年1学期13週、2学期15週、3年3学期は8週とする。

注)4年は1学期12週、2学期14週、3学期10週、5年1学期15週、2学期は17週、3学期は8週とする。

注)すべての科目、1時限70分で行う。

注)4年から6年の二重枠は、それぞれの期間の臨床実習科目であり、その配分については別に定める。

注)臨床実習は、1日6時限、1週33時限とする。

別表 2

学 科 目 名

基礎科学	基礎医学	臨床医学
生物学	解剖学(分子解剖学)	内科学
物理学	解剖学(生体構造学)	精神医学
化学	生理学(システム生理学)	小児科学
数学	生理学(生体統御学)	放射線医学
スポーツ科学	生化学・分子生物学(代謝・栄養学)	皮膚科学
英語	生化学・分子生物学(分子遺伝学)	総合医療学
ドイツ語	薬理学	リハビリテーション学
フランス語	病理学(解析人体病理学)	外科学
心理学	病理学(統御機構・腫瘍学)	脳神経外科学
哲学	微生物学・免疫学	整形外科学
倫理学	衛生学・公衆衛生学	産婦人科学
歴史学	法医学	耳鼻咽喉科学
文化人類学	医療管理学	泌尿器科学
法学		眼科学
国文学		麻酔科学
社会学		救急医学
経済学		形成外科学

Number

第 号

Nippon Medical School

卒業証書・学位記

hereby confers upon

(氏 名)

(氏 名)

年 月 日生

who has successfully completed the course of
study prescribed by the School the degree of

本学所定の課程を修めて

本学を卒業したことを認め

Bachelor of Medicine

学士（医学）の学位を授与する

(年 月 日)



大醫日
學科本

年 月 日

[signature]

日本医科大学長 (氏 名)

長科日
之大本
印學醫

学 長 氏 名

President of Nippon Medical School

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容

本学は、令和7年4月1日からの医学部の入学定員及び総定員について、次のとおり変更する。

年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
入学定員	125	110	110	110	110	110
総定員	750	734	718	705	690	675

イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性

本学では、平成21年6月23日に閣議決定された「経済財政改革の基本方針2009」を踏まえ、平成22年度に千葉県地域枠1名及び福島県地域枠1名を増員し、入学定員を112名とした。

翌平成23年度も「新成長戦略」に基づき、千葉県地域枠2名を増員、入学定員を114名とした。平成28年度には静岡県地域枠1名及び千葉県地域枠1名を増員し、入学定員を116名とした。平成29年度には埼玉県地域枠2名を増員し、入学定員を118名とした。また平成30年度には静岡県地域枠3名を増員し、入学定員を121名とした。さらに令和2年度に千葉県地域枠3名、埼玉県地域枠2名を増員し、令和3年度までの入学定員を126名とした。令和4年度は埼玉県地域枠2名、福島県地域枠1名をそれぞれ減員し、入学定員123名とした。令和5年度は新たに新潟県地域枠2名を増員し、入学定員125名とした。

令和5年11月27日付「令和7年度の医学部臨時定員の暫定的な維持について（通知）」（文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長）に基づき、本学として社会の要請に応え、引き続き地域医療を担う医師の確保に貢献するため、埼玉県、千葉県、静岡県、新潟県と協議した結果、地域医療等に従事する明確な意思を持った学生に対し、令和6年度に引き続き、令和7年度入学者選抜試験も、埼玉県地域枠2名、千葉県地域枠7名、静岡県地域枠4名、新潟県地域枠2名を令和6年度の臨時定員として増員し、入学定員125名とする。

ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

① 本学では 6 年一貫教育を実施しているため明確な区切りはないが、第 1 学年から第 2 学年の一部にかけては主に基礎科学を、第 2 学年から第 3 学年にかけては主に基礎医学を、第 3 学年の一部から第 6 学年までは主に臨床医学、社会医学を教育している。基礎医学、臨床医学の統合された授業も多数存在する。特に臨床医学においては、器官系統別のコース講義を実施している。

今回の収容定員変更に伴う教育課程の変更は行わないが、地域医療の向上とそれに携わる医療人の育成をめざし、入学後から地域医療を段階的・有機的に関連づけて学べるよう、下記のプログラムを全学生に必修としている。

- (1) 第 1 学年次では、地域医療への貢献に関し、早期よりの動機付けを図るため、「地域医療実習」として地域医療を担う医療機関で体験実習を行っている（医学実地演習 1）。その中で、地域枠学生については、令和 6 年度から当該県での実習を義務とする「卒前教育プログラム」を開始した。「卒前教育プログラム」は、各県や医療機関との連携が深まり、より高い教育効果が得られるものとする。
- (2) 第 2 学年次では、介護医療、療養型医療などの高齢者に対する生活支援などの現状を学ぶため地域の障がい者支援施設・特別養護老人ホームなどの施設で体験実習を行っている。（医学実地演習 2）
- (3) 第 3 学年次では、地域医療を担う家庭医、在宅医療担当医、東京都医師会長などを外部講師として招き、総合医療、在宅医療、地域医療、高齢医療、プライマリーケア等について幅広く学ぶ機会を設けている。（臨床医学総論）
- (4) 第 4 から 5 年次では、臨床実習として、開業医などに臨床医学教育協力施設として協力を願い、1 週間の地域実習を行い、現場の実体験をしている。
- (5) 第 6 学年次では、選択臨床実習として、北村山公立病院（山形県）、亀田総合病院（千葉県）、町立八丈病院（東京都）などの大学指定の医療機関や学生が希望する地域病院など、本学付属病院以外での実習を認めており、地域医療の現状、課題や必要性を学んでいる。

特に地域枠学生に関しては、当該地域での臨床実習を組み入れることを義務としている。

② 医学部の専任教員数は、令和 6 年 5 月 1 日現在では、教授 99 名、准教授 131 名、

講師 134 名で大学設置基準を十分満たしており、各分野に適切に配置している。また、兼任教員数は、基礎医学 43 名、臨床医学 310 名、先端医学研究所 6 名である。

地域医療実習の充実化のため、平成 28 年からクリニックなどの実地医家を対象として臨床医学教育協力施設制度を開始し、それぞれの院長などに対して教務部委員会での審査の上で連携講師を委嘱し、現在 52 名を任命している。

専任教員は総数 1,074 名であり、学生一人あたりの教員数は 1.4 名となる。収容定員の変更に対しても、十分に質の高い医学教育を行うに足る教員数を確保している。

- ③ 本学には、東京都文京区の千駄木キャンパス、東京都武蔵野市の武蔵境キャンパス、千葉県印西市の千葉北総キャンパスがある。千駄木キャンパスには、法人本部、医学部教育棟、付属病院、中央図書館、丸山記念研究棟及び生命科学研究センターがあり、隣接して基礎医学大学院棟がある。武蔵境キャンパスは日本獣医生命科学大学とキャンパスを共用するもので、基礎科学課程はここに設置している。千葉北総キャンパスには CC（クリニカル・クラークシップ）棟、基礎医学大学院棟（法医学）、野球・サッカー・ラグビー併用グラウンド、テニスコート、学生用クラブハウス、体育館がある。また、臨床医学教育提供のための臨床施設として千駄木キャンパス内の付属病院に加え、神奈川県川崎市に武蔵小杉病院、東京都多摩市に多摩永山病院、千葉県印西市に千葉北総病院を設置しており、収容定員の変更にあっても十分な施設・設備を有している。

以 上



令和 7 年度
医学部入学定員増員計画

日医大（教）第 183 号

令和 6 年 8 月 22 日

文部科学省高等教育局長 殿

職名及び氏名

学校法人日本医科大学

理事長 坂本 篤 裕



「地域の医師確保等の観点からの令和 7 年度医学部入学定員の増加について（令和 6 年 8 月 7 日文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

<連絡先>

責任者連絡先	職名・氏名	学事部長 鎌田 誠
	TEL	03-3822-2131
	FAX	03-3822-2175
	E-mail	kamata@nms.ac.jp

大学名	国公立
日本医科大学	私立

1. 現在（令和6年度）の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
125	0	0	746

↑
(収容定員計算用)

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	計
(ア) 入学定員	121	126	126	123	125	125	746
(イ) 2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	121	126	126	123	125	125	746

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和7年度の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
110	0	0	

↑
(収容定員計算用)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	計
(ア) 入学定員	110	110	110	110	110	110	660
(イ) 2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	110	110	110	110	110	110	660
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

3. 令和7年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
125	0	0	675

↑
(収容定員計算用)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	計
(ア) 入学定員	125	110	110	110	110	110	675
(イ) 2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	125	110	110	110	110	110	675
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

増員希望人数 **15**

↑
(内訳)

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増（地域枠）	15
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増（研究医枠）	0
計	15

1. 地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数 15

(1) 対象都道府県名及び増員希望人数

	都道府県名	増員希望人数
大学が所在する都道府県	東京都	0
	千葉県	7
大学所在地以外の都道府県	埼玉県	2
	静岡県	4
	新潟県	2
計		15

※「大学所在地以外の都道府県」が5都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(2) 修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	R5地域枠定員 (※1)	R5貸与者数 (※2)	R6地域枠定員 (※1)	R6貸与者数 (※2)	R5とR6の貸与 者数のうち多い 方の数
千葉県	7	7	7	7	7
埼玉県	2	2	2	2	2
静岡県	4	4	4	4	4
新潟県	2	2	2	2	2
東京都	0	5	0	5	5
計	15	20	15	20	20

(※1) 臨時定員分のみご記入ください。

(※2) 恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。

※6都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(3) 令和7年度地域の医師確保のための入学定員増について

1. 大学が講ずる措置

1-1. 地域枠学生の選抜

① 令和5年度に実施した地域枠学生(令和6年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	診療科の選定の有無	(診療科の選定(推奨)がある場合)その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
一般入学試験・地域枠(埼玉県)	(iii) 一般選抜 地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	2	2	学力試験の成績により1次合格者を決定し、小論文と面接による2次試験の結果及び調査書を総合して2次試験合格者を決定する。	高等学校または中等教育学校を卒業した者及び令和6年3月卒業見込みの者。	推奨	産科、小児科、救命救急センター	H29	
一般入学試験・地域枠(新潟県)	(iii) 一般選抜 地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	2	2	学力試験の成績により1次合格者を決定し、小論文と面接による2次試験の結果及び調査書を総合して2次試験合格者を決定する。	高等学校または中等教育学校を卒業した者及び令和6年3月卒業見込みの者。	推奨	内科・総合診療科	R5	
一般入学試験・地域枠(千葉県)	(iii) 一般選抜 地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	7	7	学力試験の成績により1次合格者を決定し、小論文と面接による2次試験の結果及び調査書を総合して2次試験合格者を決定する。	高等学校または中等教育学校を卒業した者及び令和6年3月卒業見込みの者。	無		H22	
一般入学試験・地域枠(静岡県)	(iii) 一般選抜 地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	4	4	学力試験の成績により1次合格者を決定し、小論文と面接による2次試験の結果及び調査書を総合して2次試験合格者を決定する。	高等学校または中等教育学校を卒業した者及び令和6年3月卒業見込みの者。	無		H28	
一般入学試験・地域枠(東京都)	(iii) 一般選抜 地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	5	0	学力試験の成績により1次合格者を決定し、小論文と面接による2次試験の結果及び調査書を総合して2次試験合格者を決定する。	高等学校または中等教育学校を卒業した者及び令和6年3月卒業見込みの者。	有	小児・周産期・救急・へき地	R4	
合計			20	15						

(※1) 貴大学において作成した学生募集要項に記載の内容をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

② 令和6年度に実施する地域枠学生(令和7年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。

また、参考としてPRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	診療科の選定の有無	(診療科の選定(推奨)がある場合)その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
一般入学試験・地域枠(埼玉県)	(iii) 一般選抜 地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	2	2	学力試験の成績により1次合格者を決定し、小論文と面接による2次試験の結果及び調査書を総合して2次試験合格者を決定する。	高等学校または中等教育学校を卒業した者及び令和7年3月卒業見込みの者。	無		H29	
一般入学試験・地域枠(新潟県)	(iii) 一般選抜 地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	2	2	学力試験の成績により1次合格者を決定し、小論文と面接による2次試験の結果及び調査書を総合して2次試験合格者を決定する。	高等学校または中等教育学校を卒業した者及び令和7年3月卒業見込みの者。	推奨	内科・総合診療科	R5	
一般入学試験・地域枠(千葉県)	(iii) 一般選抜 地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	7	7	学力試験の成績により1次合格者を決定し、小論文と面接による2次試験の結果及び調査書を総合して2次試験合格者を決定する。	高等学校または中等教育学校を卒業した者及び令和7年3月卒業見込みの者。	無		H22	
一般入学試験・地域枠(静岡県)	(iii) 一般選抜 地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	4	4	学力試験の成績により1次合格者を決定し、小論文と面接による2次試験の結果及び調査書を総合して2次試験合格者を決定する。	高等学校または中等教育学校を卒業した者及び令和7年3月卒業見込みの者。	無		H28	
一般入学試験・地域枠(東京都)	(iii) 一般選抜 地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	5	0	学力試験の成績により1次合格者を決定し、小論文と面接による2次試験の結果及び調査書を総合して2次試験合格者を決定する。	高等学校または中等教育学校を卒業した者及び令和7年3月卒業見込みの者。	有	小児・周産期・救急・へき地	R4	
合計			20	15						

(※1) 貴大学において、PRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)に記載の内容(貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容)をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	都道府県との連携	期間 (例：○週間)	プログラムの概要（1～2行程度）	開始年度

(※1) 対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。
 ※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

⑤上記③④以外に、地域医療を担う医師の養成に関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。(令和5年度以前から継続する取組を含む) (1～2行程度)

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

2. 都道府県等との連携

①都道府県が設定する奨学金について、以下をご記入ください。併せて、都道府県が厚生労働省に提出する予定の地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」(平成元年法律第64号)第4条に規定する都道府県計画等に位置づけることを約束する文書を添付して下さい。

なお、複数の奨学金を設定している場合は、それぞれ記入ください。

奨学金の設定主体	貸与人数	貸与対象	貸与額 (例: 200,000)		返還免除要件	選抜方法		診療科の選定の有無	(診療科の選定(推奨)がある場合)その診療科名	備考
			月額	総貸与額		選抜時期	大学の関与の有無(※1)			
千葉県	7	新入生	200,000	14,400,000	医師免許取得後県指定機関に、県の指定期間従事	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	○	無		大学が各県に推薦
埼玉県	2	新入生	200,000	14,400,000	医師免許取得後県指定機関に、県の指定期間従事	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	○	無		大学が各県に推薦
静岡県	4	新入生	200,000	14,400,000	医師免許取得後県指定機関に、県の指定期間従事	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	○	無		大学が各県に推薦
新潟県	2	新入生	300,000	21,600,000	医師免許取得後県指定機関に、県の指定期間従事	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	○	推奨	内科・総合診療科	大学が各県に推薦
東京都	5	新入生	100,000	29,200,000	医師免許取得後、小児医療、周産期医療、救急医療、へき地医療のいずれかで、東京都が指定する医療機関で奨学金貸与期間の1.5倍以上の期間(初期臨床研修期間を含む)医師として継続的に従事	②大学における選抜と同時に都道府県において面接等を実施	○	有(選定)	小児、周産期、救急、へき地	大学が都に推薦 総貸与額(①+②) 内訳 ①6年間合計の修学費 22,000,000 ※修学費は都から直接大学へ支払われます。 ②6年間の生活費計 7,200,000 ※生活費は月額100,000を貸与

(※1) 診療科の限定または推奨がある場合は、備考欄に詳細をご記入ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②その他、都道府県と連携した取組があれば、簡潔にご記入ください。(例: 在学中の学生に対する都道府県と連携した相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援) (1~2行程度)

取組の名称	取組の概要(1~2行程度)	開始年度
地域枠学生交流会	地域枠学生及び県担当者として交流・情報交換会を行っている。	R1
オープンキャンパスへの都県担当者の参	多数の入学志願者が集まるオープンキャンパスに各都県地域枠担当者が出席し、詳細に説明・広報活動に努めている。	R5

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

3. その他

1~2に記入したものの以外で、その他、地域の医師確保の観点から大学の今後の取組があれば、簡潔にご記入ください。(1~3行程度)

特に、都道府県からの奨学金の貸与を受ける者、地域枠入学者を確保するために貴大学で取組まれていることや今後の取組み予定がありましたら、ご記入ください。

地域枠学生専用の卒前教育プログラム推進の一環として当該地域枠県での地域医療実習の実施に着手中である。

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア. 定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

本学は、1876年に長谷川泰により創立された「済生学舎」を前身とし、まもなく創立150年を迎える私立医科大学である。学是を「克己殉公」、教育理念に「愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成」を掲げ、これまでに野口英世や肥沼信次をはじめ1万人以上の臨床医、医学研究者、医政従事者を輩出してきた。

東京都文京区及び武蔵野市、千葉県印西市にキャンパスがあり、4つの付属病院を有している。文京区千駄木にある千駄木キャンパスにおいては、高度情報化に対応した医療環境や救急医療と集中治療室を強化・充実させた新しい付属病院が2018年1月にグランドオープンし、学生にとって最先端かつハイレベルな学びの場となっている。また、千葉県印西市の千葉北総キャンパスでは、運動施設を充実し、さらに大学院棟(法医学)を建設、最新の教育研究環境を整備した。神奈川県川崎市にある武蔵小杉病院についても、2021年9月に高度医療を提供する新病院にリニューアルオープンした。

医学教育リソース領域では、「医科大学版テクノロジー革命」の一環として、e-Learningや電子黒板(BigPad)、学生用電子カルテシステム等ICTを駆使した教育環境の充実を図っている。さらに、未来型医学教育(VR技術を活用したオンライン講義、シミュレータを用いた遠隔PBLなど)を着々と進めており、「個別化最適化教育の推進」、「系統的網羅的臨床実習の構築」など新時代の医学教育を展開している。また、数理・データサイエンス・AI教育センターを設置し、AI時代の人材育成にも取り組んでいる。

イ. 地域・社会的動向等の現状把握と分析

本学が地域枠を設置している千葉県、埼玉県、静岡県、新潟県の令和4年12月31日現在の医師数及び人口10万対医師数は資料1のとおりである。

人口10万対医師数では、埼玉県は180.2人と最も少なく、千葉県も209.0人と3番目に少ない状況である。

ウ. 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

○趣旨目的

令和 5 年 11 月 27 日付「令和 7 年度の医学部臨時定員の暫定的な維持について（通知）」（文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長）に基づき、本学として社会の要請に応え、引き続き地域医療を担う医師の確保に貢献するため、埼玉県、千葉県、静岡県、新潟県と協議した結果、埼玉県地域枠 2 名、千葉県地域枠 7 名、静岡県地域枠 4 名、新潟県地域枠 2 名を令和 7 年度の臨時定員として増員する。

○教育内容

令和 5 年度入学生から新カリキュラムを導入し、新カリキュラムでは、知識を積み重ねていく累積型プログラムと学年を超えて継続する縦断型プログラムから構成されることが大きな特徴となっている。学問的知識の体系性という観点のみではなく、医師に求められる人材像との関係で整理した教育内容を体系的に学ぶ統合型カリキュラムへ転換し、医療情報科学を重視するため AI や数理・データサイエンス教育なども十分に盛り込んでいる。また、過密な講義スケジュールの軽減のために講義時間を 3 割程度削減、研究配属期間の延長などの個別化教育の拡充、高機能シミュレータと ICT を活用した遠隔 PBL（課題解決型学習）など、ウィズ・ポストコロナ時代を見据えた教育改革を行っている。

○定員設定等

令和 5 年 11 月 27 日付「令和 7 年度の医学部臨時定員の暫定的な維持について（通知）」（文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長）を踏まえ、引き続き埼玉県地域枠 2 名、千葉県地域枠 7 名、静岡県地域枠 4 名、新潟県地域枠 2 名を臨時定員とし、恒久定員 110 名と合わせて入学定員を 125 名とする。

○入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

学生納付金については、平成 30 年度に改定（6 年間累計で 2,770 万円から 2,200 万円へと 570 万円減）を行い、以下のとおりとしている。

入 学 金：1,000,000 円

授 業 料：2,500,000 円

施設整備費：1,000,000 円

他私立大学医学部と比較して低い金額であるが、本学は教育の質の向上と設備の充実に注力する一方で、運営の効率化を図っており、定員増員後の学生納付金の改定は行わない。

エ. 学生の確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

令和 6 年度の医学部入学定員は 125 名で、このうち、埼玉県地域枠が 2 名、千葉県地域枠が 7 名、静岡県地域枠が 4 名、新潟県地域枠が 2 名となっている。

医学部の在籍学生数の収容定員に対する比率は、令和 5 年度は 102%であり、また令和 6 年度入試において、入学者数の入学定員に対する比率は 100.8%である。

平成 29 年度から前期と後期の 2 度の入学試験を実施したことで志願者が平成 28 年度 2,241 名から平成 29 年度 3,389 名へと 1,148 名増加した (51%増)。

志願倍率は平成 28 年度は 19 倍であったが平成 29 年度は 28 倍を超えた。

さらに、平成 31 年度から後期試験に「大学入試センター試験 (国語) 併用」を新設し、3 区分の受験を可能にした結果、志願者が 4,196 名となり、平成 30 年度と比較して 264 名増 (6%増) となった。

令和 6 年度からは「大学入試センター試験 (国語) 併用」に英語 4 技能の評価を加え、前期試験に移行した。

令和 6 年度においても志願者は 3,939 名であり、高い水準を維持している。

こうした状況を照らし、今後も長期かつ安定的に学生を確保することができると思われる (資料 2)。

B. 新設学部等の分野の動向

本学の所在地である東京都に医学部を置く私立大学の一般選抜の志願者状況は資料 3 のとおりである。各大学とも安定的に多くの志願者を確保しており、本学においても約 4,000 人の志願者を集めている。

C. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

文部科学省のデータでは、18 歳人口は令和 5 年に 110 万人にまで減少し、令和 23 年には 80 万人を切る事が予測されている。

本学の地域別志願者数は、関東地域が全体の 82%と集中しているが、リクルート進学総研レポートのエリア別の 18 歳人口予測 (2023~2035 年) では、南関東は減少率が低いとされており、さらに 2023 年大学進学率が最も高いエリアは南関東であったことから、18 歳人口の減少が続く状況においても定員の増員については大きく影響しないものとする (資料 4)。

D. 競合校の状況

立地状況等を考慮し、東京医科大学、東京慈恵会医科大学、慶應義塾大学、昭和

大学、順天堂大学を競合校とした。

競合校と本学の令和 6 年度の入学者志願状況について比較したが、各大学とも十分な志願者を確保し、入学定員を充足している状況である。本学においても約 4,000 人の志願者を確保していることから、今後とも安定的に学生の確保ができることを見込んでいる（資料 5）。

E. 既設学部等の学生確保の状況

直近 5 年間の平均では志願者数 3,807 人、志願者倍率 31.3 倍となっており、今後も十分に学生の確保ができる状況である。

また、資料 6 に示すとおり最近 5 年間の入学定員と入学者数はほぼ一致しており、平均入学定員超過率は 1.00 倍となっている。

オ. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

○ホームページ等による情報発信

大学ホームページに受験生向けサイトを設け、入学試験要項や大学案内をデジタルパンフレットで公開している他、過去の志願者の推移等及び学納金、特待生制度、奨学金、地域枠奨学金貸与に関する詳細な情報等を掲載し、大学からの情報発信に努めている。また、大学紹介動画や学生インタビュー動画等の動画コンテンツも充実している。

○大学案内パンフレット

冊子体の大学案内パンフレットを毎年作成し、オープンキャンパス、進学相談会、学内イベント、高等学校又は予備校訪問等において、幅広く配布している。

○オープンキャンパス

毎年 8 月にオープンキャンパス「日医大の今が見える 1 日」を開催しており、令和 6 年度は 8 月 9 日の午前と午後、8 月 23 日の午前と午後の計 4 回を開催した。模擬講義や研究室での講義、医学部教授と現役学生との座談会、現役学生の相談コーナー等数多くのプログラムを用意し、受験生が本学の魅力を実体験できるようにしている。また、地域枠を設置している各都県と連携し、自治体職員による地域枠相談コーナーを設ける等地域枠入試の周知を図っている。さらに遠方の方や都合により来校できない方々を対象とした Web 型オープンキャンパスも併せて開催している。

○外部イベント等への参加

学長や医学部長による予備校での説明会の他、外部団体が主催する進学相談会等のイベントにも積極的に参加し、大学の広報活動を行っている。

2. 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育上の目的（概要）

本学の学是は「克己殉公」、すなわち“己に克ち、広く人々のために尽くす”ことであり、教育理念として「愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成」を掲げ、多くの臨床医、医学研究者、医政従事者を輩出してきた。この学是、理念、そして歴史ある私立医科大学という特徴を基盤に、最新の医学を教育・研究し、広く国際的な視野に立った見識と豊かな人間性を備えた医師、医学研究者の養成に努め、人々の健康の維持・増進、社会に貢献することを使命としている。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的根拠

地域における医師不足の解消は現下の大きな課題であり、令和5年11月27日付文部科学省高等教育局長及び厚生労働省医政局長名で、令和6年度末を期限とする医学部入学定員の臨時増員については、令和7年度末まで1年間延長することした通知が発出されたところである。

厚生労働省による都道府県別医師偏在指標（令和6年1月10日更新）において、本学が地域枠を設置している千葉県、埼玉県、静岡県、新潟県はいずれも下位1/3に位置しており、医師少数県となっている（資料7）。

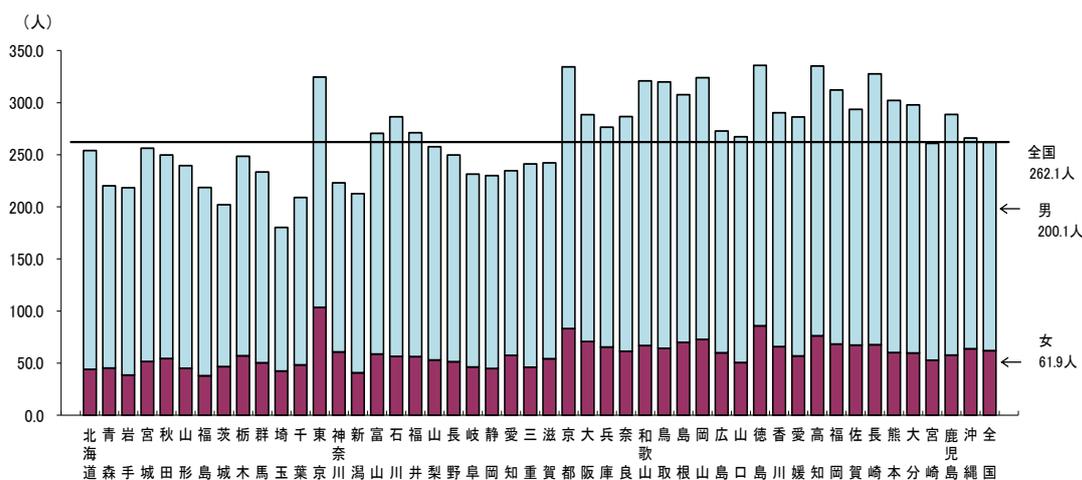
本学では、平成22年から地域枠を設置しており、これまで38名の卒業生を輩出してきた。卒業生は本学の学是である「克己殉公」の精神を胸に刻み、各地域において医師として地域医療に従事しており、本学は地域医療を担う医師を確保し、地域医療に貢献するという社会的、地域的な要請に十分に答えることができるものとなっている。

以 上

資料1 令和4年12月1日現在医師数及び人口10万対医師数

	医師数(医療施設の従事者)	人口10万対医師数(医療施設の従事者)	全国の水準
千葉県	13,097人	209.0人	262.1人
埼玉県	13,224人	180.2人	
静岡県	8,242人	230.1人	
新潟県	4,581人	212.8人	

都道府県(従業地)別にみた医療施設に従事する人口10万対医師数



(厚生労働省「令和4(2022)年医師・歯科医師・薬剤師統計の概況」より)

資料 2 医学部入学志願者等の推移（単位：人）



区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学者	倍率
令和6年度入試	3,939	3,598	213	126	33.1
令和5年度入試	3,637	3,315	225	125	30.3
令和4年度入試	3,458	3,144	208	123	29.6
令和3年度入試	3,882	3,530	231	126	30.8
令和2年度入試	4,118	3,720	234	126	32.7
平成31年度入試	4,196	3,901	434	121	34.6
平成30年度入試	3,932	3,672	390	121	32.4
平成29年度入試	3,389	3,126	332	118	28.7
平成28年度入試	2,241	2,132	326	116	19.3
平成27年度入試	2,295	2,035	415	114	20.1

資料3 東京都に医学部を置く私立大学の一般選抜志願者数

大学	R4 年度	R5 年度	R6 年度
日本医科大学	3,458	3,502	3,939
日本大学医学部	3,295	2,880	3,680
東邦大学医学部	2,304	3,002	3,069
東京医科大学	2,676	3,306	3,621
東京女子医科大学	681	917	959
東京慈恵会医科大学	1,860	1,860	1,968
慶應義塾大学医学部	1,388	1,412	1,483
昭和大学医学部	4,167	3,951	3,525
順天堂大学医学部	3,707	4,248	4,785
杏林大学医学部	3,382	3,876	3,966
帝京大学医学部	7,230	7,727	9,455

資料4 令和6年度地域別志願者数

地域	志願者数 (人)	割合
北海道	51	1.3%
東北	62	1.6%
関東	3,241	82.2%
中部・北陸	261	6.6%
近畿	113	2.9%
中国	48	1.2%
四国	34	0.9%
九州	77	2.0%
沖縄	15	0.4%

資料 5 競合校の状況

大学	志願者数	受験者数	入学者数	定員充足率
日本医科大学	3,939	3,598	126	1.01
東京医科大学	3,621	3,331	123	1.00
東京慈恵会医科大学	1,968	1,644	105	1.00
慶應義塾大学医学部	1,483	1,270	110	1.00
昭和大学医学部	3,525	3,082	131	0.98
順天堂大学医学部	4,849	4,538	140	1.00

(各大学ホームページより)

資料 6 定員充足率等 (過去 5 年)

区分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	平均入学 定員超過 率
入学定員超過率	(1.00)	(1.00)	(1.00)	(1.00)	(1.01)	(1.00)
入学者数	126	126	123	125	126	
入学定員	126	126	123	125	125	

資料 7 都道府県別医師偏在指標

医師偏在指標

(都道府県別)

■ 上位1/3 ■ 下位1/3

都道府県コード	都道府県	医師偏在指標	都道府県コード	都道府県	医師偏在指標
00	全国	255.6	24	三重県	225.6
01	北海道	233.8	25	滋賀県	260.4
02	青森県	184.3	26	京都府	326.7
03	岩手県	182.5	27	大阪府	288.6
04	宮城県	247.3	28	兵庫県	266.5
05	秋田県	199.4	29	奈良県	268.9
06	山形県	200.2	30	和歌山県	274.9
07	福島県	190.5	31	鳥取県	270.4
08	茨城県	193.6	32	鳥根県	265.1
09	栃木県	230.5	33	岡山県	299.6
10	群馬県	219.7	34	広島県	254.2
11	埼玉県	196.8	35	山口県	228.0
12	千葉県	213.0	36	徳島県	289.3
13	東京都	353.9	37	香川県	266.9
14	神奈川県	247.5	38	愛媛県	246.4
15	新潟県	184.7	39	高知県	268.2
16	富山県	238.8	40	福岡県	313.3
17	石川県	279.8	41	佐賀県	272.3
18	福井県	246.8	42	長崎県	284.0
19	山梨県	240.8	43	熊本県	271.0
20	長野県	219.9	44	大分県	259.7
21	岐阜県	221.5	45	宮崎県	227.0
22	静岡県	211.8	46	鹿児島県	254.8
23	愛知県	240.2	47	沖縄県	292.1

※上位1/3の閾値を266.9、下位1/3の閾値を228.0と設定している。

(医師偏在指標について)

医師偏在指標は、医師偏在対策の推進において活用されるものであるが、指標の算定に当たっては、一定の仮定が必要であり、また、入手できるデータの限界などにより指標の算定式に必ずしも全ての医師偏在の状況を表しうる要素を盛り込んでいるものではない。

このため、医師偏在指標の活用にあたっては、医師の絶対的な充足状況を示すものではなく、あくまでも相対的な偏在の状況を表すものであるという性質を十分に理解した上で、数値を絶対的な基準として取り扱うことや機械的な運用を行うことのないよう十分に理解した上で、活用する必要がある。

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	ゲンマ アキヒコ 弦間 昭彦 <令和5年10月>		医学博士		学長 <令和5年10月～令和8年9月>

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

基幹教員の氏名等

(日本医科大学医学部医学科)

番号	職位	フリガナ 氏名	年齢	保有 学位等	現 職 (就任年月)	学則変更年度								学則変更前年度								備考				
						担当授業科目				教育課程の編成等の意思決定に 係る会議等への参画状況				申請に係る 大学における 教育研究に 従事する 週当たり平 均時間数	申請に係る学 部等以外(他 の大学等に 置かれる学部 等を含む)の組 織での基幹教 員としての勤 務状況	担当授業科目				教育課程の編成等の意思決定に 係る会議等への参画状況				申請に係る 大学における 教育研究に 従事する 週当たり平 均時間数	申請に係る学 部等以外(他 の大学等に 置かれる学部 等を含む)の組 織での基幹教 員としての勤 務状況	
						科目の名称	主要授業 科目	配当 年次	担当 単位数	教授会	教務 委員会	その他	「その他」 の場合、法 議等の名称			科目の名称	主要授業 科目	配当 年次	担当 単位数	教授会	教務 委員会		その他			「その他」 の場合、法 議等の名称
1	学長	ケンマ アサヒコ 弦間 昭彦		医学博士	日本医科大学学長 平27年10月	医学概論	○	1	1	○	○			37.5		呼吸器内科学	○	3	(8)					37.5		
2	教授	キキゾウ トシヒロ 瀧澤 俊広		博士(医学)	日本医科大学医学部教授 平15年7月	組織・臓器の発 生・構造と機能2	○	2	2	○				37.5		分子解剖学	○	2	(204)					37.5		
3	教授	インイ ヒロタカ 石井 寛高		博士(理学)	日本医科大学医学部教授 令4年4月	個体の正常構造と 機能2	○	2	4	○	○			37.5		解剖学・神経生物 学	○	2	(376)					37.5		
4	教授	シメズ アキラ 清水 暲		博士(医学)	日本医科大学医学部教授 平25年6月	病因と病態	○	2~3	3	○				37.5		解析人体病理学	○	2	(726)					37.5		
5	教授	オオハシ リョウジ 大橋 隆治		博士(医学)	日本医科大学医学部教授 令2年4月	病因と病態	○	2~3	3	○	○			37.5		統御機構診断病理 学	○	2	(731)					37.5		
6	教授	モリタ リンペイ 森田 林平		博士(医学)	日本医科大学医学部教授 令1年7月	生体と微生物	○	2	3	○	○			37.5		微生物学・免疫学	○	2	(326)					37.5		
7	教授	カワダ トシキ 川田 智之		医学博士	日本医科大学医学部教授 平15年5月	社会医学1	○	2~3	4	○				37.5		衛生学公衆衛生学	○	2~3	(262)					37.5		
8	教授	カシノ タイチ 加藤 大輔		博士(医学)	日本医科大学医学部教授 令6年4月	刺激受容と情報伝 達	○	2	6	○				37.5												
9	教授	キキゾウ ヨシヒコ 柿沼 由彦		博士(医学)	日本医科大学医学部教授 平25年7月	刺激受容と情報伝 達	○	2	6	○				37.5		生体統御科学	○	2	(320)					37.5		
10	教授	サトウ タツ 佐藤 卓		博士(医学)	日本医科大学医学部教授 令6年10月	生体の構成物質	○	2	4	○				37.5												
11	教授	サカイ マチト 酒井 真志人		博士(医学)	日本医科大学医学部教授 令2年8月	生体の構成物質	○	2	4	○	○			37.5		分子遺伝医学	○	2	(268)					37.5		
12	教授	アライ リョウスケ 荒川 亮介		博士(医学)	日本医科大学医学部教授 令3年4月	薬物・放射線と生 体	○	2~3	4	○	○			37.5		薬理学	○	3	(350)					37.5		
13	教授	キナブタ ヨシオ 金浦 佳穂		博士(医学)	日本医科大学医学部教授 平31年4月	社会医学2	○	2~3	4	○	○			37.5		法医学	○	3	(306)					37.5		
14	教授	ニトウ マチヨ 仁藤 智香子		博士(医学)	日本医科大学医学部教授 令3年4月	研究配属	○	3	2	○				37.5		神経内科学	○	3	(10)					37.5		
15	教授	シメズ タカユキ 清水 輝道		博士(医学)	日本医科大学医学部教授 平27年10月	医学統合プログラ ム1	○	1	1	○	○			37.5		医学統合プログラ ム1	○	1	(60)					37.5		
16	教授	キタノ ヨシヒコ 北村 義浩		博士(医学)	日本医科大学医学部教授 令6年4月	臨床病態学	○	6	5	○	○			37.5		臨床病態学	○	6	(60)					37.5		
17	教授	シバキ エイサク 吉川 栄省		博士(医学)	日本医科大学医学部教授 令2年4月	行動科学1	○	1	1	○	○			37.5		行動科学1	○	1	(254)					37.5		

18	教授	中澤 秀夫	博士 (理学)	日本医科大学医学部教授 平24年9月	数学	○	1	2	○	○		37.5		数学	○	1	(82)				37.5		
19	教授	藤崎 弘士	博士 (理学)	日本医科大学医学部教授 平31年4月	生命科学概論 (物理)	○	1	1	○	○		37.5		生命科学概論 (物理)	○	1	(290)				37.5		
20	教授	中村 成夫	博士 (薬学)	日本医科大学医学部教授 平23年4月	生命科学概論 (化学)	○	1	3	○	○		37.5		生命科学概論 (化学)	○	1	(340)				37.5		
21	教授	長谷部 孝	博士 (理学)	日本医科大学医学部教授 令4年4月	生命科学概論 (生物)	○	1	5	○			37.5		生命科学概論 (生物)	○	1	(404)				37.5		
22	教授	カーク ステイブン	PhD (in Applied Linguistics)	日本医科大学医学部教授 令6年4月	英語 1	○	1	4	○			37.5		英語1	○	1	(202)				37.5		
23	教授	坂田 伸一郎	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平18年4月	放射線医学	○	3	2	○			37.5		臨床放射線医学	○	3	(2)				37.5		
24	教授	淺井 邦也	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令4年10月	循環器	○	3	6	○	○		37.5		循環器内科学	○	3	(86)				37.5		
25	教授	高木 完	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令6年4月	臨床医学総論	○	3	4	○	○		37.5		総合医療・健康科学	○	3	(614)				37.5		
26	教授	木村 和美	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平26年7月	神経・リハビリ	○	3	6	○			37.5		神経内科学	○	3	(474)				37.5		
27	教授	山口 博樹	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令3年5月	血液・造血器	○	3	2	○	○		37.5		血液内科学	○	3	(465)				37.5		
28	教授	岩部 真人	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令4年5月	内分泌・代謝・栄養	○	3	3	○	○		37.5		内分泌代謝・腎臓内科学	○	3	(628)				37.5		
29	教授	岩切 勝彦	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平27年4月	消化器	○	3	5	○			37.5		消化器内科学	○	3	(104)				37.5		
30	教授	吉田 寛	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平30年4月	消化器	○	3	5	○			37.5		消化器外科学	○	3	(1205)				37.5		
31	教授	武井 寛幸	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平25年4月	呼吸器・感染・腫瘍・乳腺	○	3	6	○			37.5		乳腺外科学	○	3	(905)				37.5		
32	教授	杉谷 巖	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平26年5月	内分泌・代謝・栄養	○	3	3	○	○		37.5		内分泌外科学	○	3	(948)				37.5		
33	教授	石井 庸介	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令2年4月	循環器	○	3	6	○	○		37.5		心臓血管外科学	○	3	(636)				37.5		
34	教授	白田 実男	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平24年12月	呼吸器・感染・腫瘍・乳腺	○	3	6	○			37.5		呼吸器外科学	○	3	(74)				37.5		
35	教授	村井 保夫	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令5年4月	神経・リハビリ	○	3	6	○			37.5		脳神経外科学	○	3	(1286)				37.5		
36	教授	眞島 任史	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令2年4月	運動・感覚	○	4	3	○	○		37.5		整形外科	○	4	(407)				37.5		
37	教授	岡本 史樹	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令5年5月	眼科	○	4	2	○			37.5		—			0						
38	教授	鈴木 俊治	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令3年4月	産婦人科学	○	4	3	○			37.5		女性生殖発達病態学	○	4	(2026)				37.5		
39	教授	大久保 公裕	医学博士	日本医科大学医学部教授 平22年4月	頭頸部・耳鼻咽喉科学	○	4	2	○			37.5		頭頸部・感覚器科学	○	4	(155)				37.5		

40	教授	佐伯 秀久	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平26年6月	皮膚科学	○	4	2	○	○		37.5		皮膚粘膜病態学	○	4	(282)				37.5			
41	教授	小川 レイ	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平27年4月	形成・再建・再生	○	4	2	○	○		37.5		形成再建再生医学	○	4	(765)				37.5			
42	教授	近藤 幸寿	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平21年4月	腎・泌尿器	○	3	4	○	○		37.5		男性生殖器・泌尿器科学	○	3	(271)				37.5			
43	教授	石川 眞士	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令6年4月	麻酔・集中管理・疼痛制御	○	4	3	○			37.5		疼痛制御麻酔科学	○	4	(774)				37.5			
44	教授	福野 アツシ	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令3年4月	精神医学	○	4	2	○	○		37.5		精神・行動医学	○	4	(1102)				37.5			
45	教授	清家 正博	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平29年10月	呼吸器・感染・腫瘍・乳腺	○	3	6	○			37.5		呼吸器内科学	○	3	(342)				37.5			
46	教授	桑名 正隆	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平26年7月	アレルギー・膠原病・免疫	○	3	2	○	○		37.5		アレルギー・膠原病内科学	○	3	(475)				37.5			
47	教授	横堀 将司	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令2年4月	救急と生体管理	○	4	3	○	○		37.5		救急医学	○	4	(559)				37.5			
48	教授	青柳 陽一郎	Ph.D. in University of Alberta	日本医科大学医学部教授 令2年10月	神経・リハビリ	○	3	6	○	○		37.5		リハビリテーション学	○	3	(105)				37.5			
49	教授	福田 いずみ	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令3年10月	内分泌・代謝・栄養	○	3	3	○			37.5		内分泌代謝・腎臓内科学	○	3	(421)				37.5			
50	教授	木村 剛	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令4年10月	腎・泌尿器	○	3	4	○			37.5		男性生殖器・泌尿器科学	○	3	(232)				37.5			
51	教授	林 宏光	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令2年4月	放射線医学	○	3	2	○			37.5		臨床放射線医学	○	3	(2)				37.5			
52	教授	布庭 勇	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平30年10月	救急と生体管理	○	4	3	○			37.5		救急医学	○	4	(551)				37.5			
53	教授	戸山 友香	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令6年4月	腎・泌尿器	○	3	4		○		37.5		男性生殖器・泌尿器科学	○	3	(332)				37.5			
54	教授	永山 寛	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令3年4月	神経・リハビリ	○	3	6			○	SGJ実行委員会	37.5		神経内科学	○	3	(560)				37.5		
55	教授	谷合 信彦	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令1年10月	消化器	○	3	5	○			37.5		—			0				37.5			
56	教授	岳野 光洋	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令6年4月	アレルギー・膠原病・免疫	○	3	2	○			37.5		アレルギー・膠原病内科学	○	3	(674)				37.5			
57	教授	二神 圭甫	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平29年10月	消化器	○	3	5	○	○		37.5		消化器内科学	○	3	(208)				37.5			
58	教授	石田 真	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令4年10月	小児・思春期医学	○	4	3	○			37.5		小児・思春期医学	○	4	(892)				37.5			
59	教授	松根 彰志	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平27年4月	頭頸部・耳鼻咽喉科学	○	4	2	○			37.5		頭頸部・感覚器科学	○	4	(41)				37.5			
60	教授	田嶋 華子	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令6年4月	小児・思春期医学	○	4	3		○		37.5		小児・思春期医学	○	4	(183)				37.5			
61	教授	教田 あづさ	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令6年4月	皮膚科学	○	4	2		○		37.5		皮膚粘膜病態学	○	4	(98)				37.5			

62	教授	勝俣 範之	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平23年10月	呼吸器・感染・腫瘍・乳腺	○	3	6		○	武蔵小杉病院CC実行委員会	37.5		呼吸器内科学	○	3	(26)				37.5		
63	教授	井上 潤一	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令4年4月	救急と生体管理	○	4	3		○	武蔵小杉病院CC実行委員会	37.5		救急医学	○	4	(722)				37.5		
64	教授	清水 渉	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令3年1月	循環器	○	3	6	○			37.5		循環器内科学	○	3	(288)				37.5		
65	教授	堀 純子	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平30年4月	眼科	○	4	2	○			37.5		眼科学	○	4	(77)				37.5		
66	教授	松本 多森	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令6年4月	小児・思春期医学	○	4	3		○		37.5		小児・思春期医学	○	4	(2)				37.5		
67	教授	関口 敦子	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令6年4月	産婦人科学	○	4	3		○		37.5		女性生殖発達病態学	○	4	(1048)				37.5		
68	教授	廣瀬 敏	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平28年4月	呼吸器・感染・腫瘍・乳腺	○	3	6		○	多摩水山病院CC実行委員会	37.5		呼吸器内科学	○	3	(514)				37.5		
69	教授	尾崎 勝俊	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平26年10月	血液・造血器	○	3	2		○	多摩水山病院CC実行委員会	37.5		血液内科学	○	3	(4)				37.5		
70	教授	後藤 雅	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令6年4月	頭頸部・耳鼻咽喉科学	○	4	2		○	多摩水山病院CC実行委員会	37.5		頭頸部・感覚器科学	○	4	(4)				37.5		
71	教授	能勢 隆之	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令6年4月	放射線医学	○	3	2		○	多摩水山病院CC実行委員会	37.5		臨床放射線医学	○	3	(2)				37.5		
72	教授	永田 耕治	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令2年4月	リニカルラーニング*	○	4~5	56		○	多摩水山病院CC実行委員会	37.5		リニカルラーニング*	○	5	(216)				37.5		
73	教授	別所 竜蔵	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令3年4月	循環器	○	3	6	○			37.5		心臓血管外科学	○	3	(2)				37.5		
74	教授	山崎 峰雄	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平30年10月	リニカルラーニング*	○	4~5	56	○			37.5		リニカルラーニング*	○	5	(473)				37.5		
75	教授	神田 奈緒子	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令3年4月	皮膚科学	○	4	2	○			37.5		皮膚粘膜炎病態学	○	4	(148)				37.5		
76	教授	福原 茂朋	博士 (学術)	日本医科大学医学部教授 平28年4月	研究配属	○	3	2	○			37.5		病態解析学	○	3	(186)				37.5		
77	教授	岩井 桂子	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 平29年10月	研究配属	○	3	2	○			37.5		細胞生物学	○	3	(180)				37.5		
78	教授	山本 林	博士 (理学)	日本医科大学医学部教授 令4年7月	研究配属	○	3	2	○			37.5		遺伝子制御学	○	3	(182)				37.5		
79	教授	本田 一文	博士 (医学)	日本医科大学医学部教授 令2年7月	研究配属	○	3	2	○			37.5		生体機能制御学	○	3	(180)				37.5		
80	准教授	瀧澤 敬美	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令6年4月	組織・臓器の発生・構造と機能2	○	2	2		○	SGL実行委員会	37.5		分子解剖学	○	2	(364)				37.5		
81	准教授	根岸 靖幸	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令2年10月	生体と微生物	○	2	3		○	研究配属実行委員会	37.5		微生物学・免疫学	○	2	(264)				37.5		
82	准教授	大家 俊昭	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 平24年10月	社会医学1	○	2~3	4		○	カリキュラム委員会	37.5		衛生学公衆衛生学	○	2~3	(100)				37.5		
83	准教授	根本 崇宏	博士 (保健学)	日本医科大学医学部准教授 平24年10月	刺激受容と情報伝達	○	2	6		○	研究配属実行委員会	37.5		生体統御科学	○	2	(372)				37.5		

84	准教授	イワサキ ムツキ 岩崎 雄樹	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令2年4月	循環器	○	3	6		○	総合試験実 行委員会	37.5		循環器内科学	○	3	(308)				37.5		
85	准教授	サカイ ユキナオ 酒井 行直	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令6年4月	内分泌・代謝・栄 養	○	3	3		○	総合試験実 行委員会	37.5		内分泌代謝・腎臓 内科学	○	3	(222)				37.5		
86	准教授	ニシヤマ ケイジロ 西山 康裕	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 平29年4月	神経・リハビリ	○	3	6		○	総合試験実 行委員会	37.5		神経内科学	○	3	(518)				37.5		
87	准教授	マツモト リノ子 松本 典子	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令6年4月	神経・リハビリ	○	3	6		○	OSCE実 行委員会	37.5		神経内科学	○	3	(483)				37.5		
88	准教授	カワノ タツノ 河野 留郎	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令3年10月	消化器	○	3	5		○	総合試験実 行委員会	37.5		消化器内科学	○	3	(326)				37.5		
89	准教授	ヤマダ タケシ 山田 岳史	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令4年4月	消化器	○	3	5		○	研究結果実 行委員会	37.5		消化器外科学	○	3	(1383)				37.5		
90	准教授	マツダ アキトシ 松田 明久	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令6年4月	消化器	○	3	5		○	OSCE実 行委員会	37.5		消化器外科学	○	3	(1845)				37.5		
91	准教授	ニシノ セイジ 進士 誠一	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令6年4月	消化器	○	3	5		○	CBT実 行委員会	37.5		消化器外科学	○	3	(1653)				37.5		
92	准教授	シマス ケン 清水 哲也	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令6年4月	消化器	○	3	5		○	カリキュ ム委員会	37.5		消化器外科学	○	3	(1735)				37.5		
93	准教授	クリタ トモ子 栗田 智子	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令6年5月	呼吸器・感染・腫 瘍・乳腺	○	3	6		○	総合試験実 行委員会	37.5		乳腺外科学	○	3	(885)				37.5		
94	准教授	ササキ タカキ 佐々木 孝	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令2年10月	循環器	○	3	6		○	付属施設CC 実行委員会	37.5		心臓血管外科学	○	3	(630)				37.5		
95	准教授	ウエダ タカヒロ 植田 高弘	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 平27年4月	小児・思春期医学	○	4	3		○	SGI実 行委員会	37.5		小児・思春期医学	○	4	(450)				37.5		
96	准教授	フジタ ヒロシ 楠崎 秀彦	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令2年10月	小児・思春期医学	○	4	3		○	OSCE実 行委員会	37.5		小児・思春期医学	○	4	(690)				37.5		
97	准教授	ナガハラ ケン 柳原 剛	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 平27年10月	小児・思春期医学	○	4	3		○	付属施設CC 実行委員会	37.5		小児・思春期医学	○	4	(785)				37.5		
98	准教授	シバラ ヒロシ 乘原 慶光	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 平25年10月	産婦人科学	○	4	3		○	総合試験実 行委員会	37.5		女性生殖発達病態 学	○	4	(1954)				37.5		
99	准教授	カワバタ イクノ 川端 伊久乃	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令6年10月	産婦人科学	○	4	3		○	医学教育 センター	37.5		女性生殖発達病態 学	○	4	(1958)				37.5		
100	准教授	マツブタ ケン 松延 毅	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 平29年4月	頭頸部・耳鼻咽喉 科学	○	4	2		○	OSCE実 行委員会	37.5		頭頸部・感覚器科 学	○	4	(185)				37.5		
101	准教授	タニウチ ナミ子 谷内 七三子	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令6年4月	呼吸器・感染・腫 瘍・乳腺	○	3	6		○	OSCE実 行委員会	37.5		呼吸器内科学	○	3	(865)				37.5		
102	准教授	ナカエ リョウタ 中江 竜太	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令6年10月	救急と生体管理	○	4	3		○	総合試験実 行委員会	37.5		救急医学	○	4	(971)				37.5		
103	准教授	ヤマタ ケン 山本 剛	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令1年10月	循環器	○	3	6		○	総合試験実 行委員会	37.5		循環器内科学	○	3	(429)				37.5		
104	准教授	ヒラモト ミユカ子 壁本 裕加子	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令6年4月	病因と病態	○	2~3	3		○	総合試験実 行委員会	37.5		統御機構診断病理 学	○	2	(581)				37.5		
105	准教授	イクサ タケシ 池田 聡	博士 (医学)	日本医科大学医学部准教授 令4年10月	神経・リハビリ	○	3	6		○	総合試験実 行委員会	37.5		リハビリテーショ ン学	○	3	(46)				37.5		

128	講師	菱川 大介	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令3年4月	生体の構成物質	○	2	4			○	研究紀要 実行委員会	37.5		分子遺伝医学	○	2	(274)			37.5		
129	講師	時田 祐吉	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 平30年4月	循環器	○	3	6			○	OSCE実行 委員会	37.5		循環器内科学	○	3	(1051)			37.5		
130	講師	村田 広茂	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令6年4月	リニカルラーシップ	○	4~5	56			○	付属病院CC 実行委員会	37.5		リニカルラーシップ	○	5	(1180)			37.5		
131	講師	兵衛 英也	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 平31年4月	臨床医学総論	○	3	4			○	医学教育 センター	37.5		総合医療・健康科学	○	3	(629)			37.5		
132	講師	小野寺 麻加	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令2年4月	臨床医学総論	○	3	4			○	医学教育 センター	37.5		総合医療・健康科学	○	3	(643)			37.5		
133	講師	荒谷 紗絵	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令5年10月	内分泌・代謝・栄養	○	3	3			○	医学教育 センター	37.5										
134	講師	齊藤 智成	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令2年10月	神経・リハビリ	○	3	6			○	医学教育 センター	37.5		神経内科学	○	3	(1637)			37.5		
135	講師	朝山 敏夫	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令4年5月	血液・造血器	○	3	2			○	医学教育 センター	37.5		血液内科学	○	3	(366)			37.5		
136	講師	稲垣 恭子	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令1年10月	内分泌・代謝・栄養	○	3	3			○	医学教育 センター	37.5		内分泌代謝・腎臓内科学	○	3	(142)			37.5		
137	講師	川見 真之	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令4年4月	消化器	○	3	5			○	OSCE実行 委員会	37.5		消化器内科学	○	3	(403)			37.5		
138	講師	新井 泰央	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令4年4月	リニカルラーシップ	○	4~5	56			○	医学教育 センター	37.5		リニカルラーシップ	○	5	(407)			37.5		
139	講師	上田 純志	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令6年4月	消化器	○	3	5			○	医学教育 センター	37.5		消化器外科学	○	3	(1653)			37.5		
140	講師	長岡 竜太	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令4年4月	内分泌・代謝・栄養	○	3	3			○	付属病院CC 実行委員会	37.5		内分泌外科学	○	3	(1060)			37.5		
141	講師	園川 卓海	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令6年4月	呼吸器・感染・腫瘍・乳腺	○	3	6			○	医学教育 センター	37.5										
142	講師	町田 雄一郎	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令4年10月	リニカルラーシップ	○	4~5	56			○	総合試験実 行委員会	37.5		リニカルラーシップ	○	5	(1218)			37.5		
143	講師	赤野 文宏	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令4年10月	リニカルラーシップ	○	4~5	56			○	付属病院CC 実行委員会	37.5		リニカルラーシップ	○	5	(1258)			37.5		
144	講師	小寺 剛江	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令5年5月	運動・感覚	○	4	3			○	OSCE実行 委員会	37.5		整形外科学	○	4	(466)			37.5		
145	講師	権松 卓哉	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令4年5月	運動・感覚	○	4	3			○	医学教育 センター	37.5		整形外科学	○	4	(422)			37.5		
146	講師	海津 聖彦	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 平30年4月	小児・思春期医学	○	4	3			○	OSCE実行 委員会	37.5		小児・思春期医学	○	4	(152)			37.5		
147	講師	白鳥 宙	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令6年4月	眼科	○	4	2			○	総合試験実 行委員会	37.5		眼科学	○	4	(42)			37.5		
148	講師	吉野 綾穂	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令5年5月	リニカルラーシップ	○	4~5	56			○	医学教育 センター	37.5		リニカルラーシップ	○	5	(1427)			37.5		
149	講師	佐久間 直子	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令2年4月	頭頸部・耳鼻咽喉科学	○	4	2			○	医学教育 センター	37.5		頭頸部・感覚器科学	○	4	(1003)			37.5		

150	講師	市山 進	博士 (農学)	日本医科大学医学部講師 令2年4月	皮膚科学	○	4	2		○	総合診療実 行委員会	37.5		皮膚粘膜病態学	○	4	(317)			37.5		
151	講師	尾崎 紗恵子	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令6年4月	皮膚科学	○	4	2		○	付属病院CC 実行委員会	37.5										
152	講師	江浦 重義	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令5年4月	リハビリテーション	○	4~5	56		○	医学教育 センター	37.5		リハビリテーション	○	5	(490)			37.5		
153	講師	秋山 豪	学士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令6年4月	リハビリテーション	○	4~5	56		○	付属病院CC 実行委員会	37.5		リハビリテーション	○	5	(414)			37.5		
154	講師	遠藤 勇気	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令4年10月	リハビリテーション	○	4~5	56		○	付属病院CC 実行委員会	37.5		リハビリテーション	○	5	(802)			37.5		
155	講師	町田 幹	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 平30年4月	放射線医学	○	3	2		○	OSCE実行 委員会	37.5		臨床放射線医学	○	3	(180)			37.5		
156	講師	杉原 史恵	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令6年5月	放射線医学	○	3	2		○	医学教育 センター	37.5		臨床放射線医学	○	3	(27)			37.5		
157	講師	山本 真記子	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令4年5月	麻酔・集中管理・ 疼痛制御	○	4	3		○	医学教育 センター	37.5		疼痛制御麻酔科学	○	4	(761)			37.5		
158	講師	坂青 健	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令4年5月	リハビリテーション	○	4~5	56		○	医学教育 センター	37.5		リハビリテーション	○	5	(1991)			37.5		
159	講師	野上 毅	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令3年10月	精神医学	○	4	2		○	医学教育 センター	37.5		精神・行動医学	○	4	(2034)			37.5		
160	講師	田中 篤介	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 平31年4月	呼吸器・感染・腫 瘍・乳腺	○	3	6		○	付属病院CC 実行委員会	37.5		呼吸器内科学	○	3	(233)			37.5		
161	講師	白井 悠一郎	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 平31年4月	アレルギー・膠原 病・免疫	○	3	2		○	医学教育 センター	37.5		アレルギー・膠原病 内科学	○	3	(1326)			37.5		
162	講師	井関 ゆう子	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令4年5月	アレルギー・膠原 病・免疫	○	3	2		○	医学教育 センター	37.5		アレルギー・膠原病 内科学	○	3	(1159)			37.5		
163	講師	林 俊行	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令5年4月	神経・リハビリ	○	3	6		○	医学教育 センター	37.5		神経内科学	○	3	(1832)			37.5		
164	講師	五十嵐 豊	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令4年4月	救急と生体管理	○	4	3		○	付属病院CC 実行委員会	37.5		救急医学	○	4	(1369)			37.5		
165	講師	角南 英子	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令3年4月	神経・リハビリ	○	3	6		○	医学教育 センター	37.5		リハビリテーショ ン学	○	3	(255)			37.5		
166	講師	北川 恒実	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令2年4月	神経・リハビリ	○	3	6		○	医学教育 センター	37.5		リハビリテーショ ン学	○	3	(339)			37.5		
167	講師	渡部 寛	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令1年10月	運動・感覚	○	4	3		○	武蔵小形病 院CC実行委 員会	37.5		整形外科	○	4	(392)			37.5		
168	講師	新村 裕樹	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令5年4月	リハビリテーション	○	4~5	56		○	医学教育 センター	37.5		リハビリテーション	○	5	(1220)			37.5		
169	講師	倉品 隆平	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令4年4月	産婦人科学	○	4	3		○	武蔵小形病 院CC実行委 員会	37.5		女性生殖発達病態 学	○	4	(1224)			37.5		
170	講師	木全 亮二	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 平31年4月	腎・泌尿器	○	3	4		○	武蔵小形病 院CC実行委 員会	37.5		男性生殖器・泌尿 器科学	○	3	(98)			37.5		
171	講師	許田 真勇	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令3年4月	病因と病態	○	2~3	3		○	武蔵小形病 院CC実行委 員会	37.5		統御機構診断病理 学	○	2	(215)			37.5		

172	講師	フクベ 顕弘	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令4年5月	救急と生体管理	○	4	3			○	05CB実行 委員会	37.5		救急医学	○	4	(432)			37.5		
173	講師	オキタ リョウ 太田 竜	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令6年4月	消化器	○	3	5			○	医学教育 センター	37.5		消化器外科学	○	3	(1080)			37.5		
174	講師	オナカ ショウ 田中 周	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 平28年4月	リニカルラーニング	○	4~5	56			○	多摩水山病 院CC実行委 員会	37.5		リニカルラーニング	○	5	(157)			37.5		
175	講師	サトウ 三洋	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 平11年10月	腎・泌尿器	○	3	4			○	多摩水山病 院CC実行委 員会	37.5		男性生殖器・泌尿 器科学	○	3	(142)			37.5		
176	講師	マシノ 隆哉	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 平26年4月	麻酔・集中管理・ 疼痛制御	○	4	3			○	多摩水山病 院CC実行委 員会	37.5		疼痛制御麻酔科学	○	4	(474)			37.5		
177	講師	阪口 正洋	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令4年5月	血液・造血器	○	3	2			○	医学教育 センター	37.5		血液内科学	○	3	(646)			37.5		
178	講師	カワノ 康裕	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令4年4月	リニカルラーニング	○	4~5	56			○	医学教育 センター	37.5		リニカルラーニング	○	5	(511)			37.5		
179	講師	イノグア 聡 井手口 聡	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令6年5月	リニカルラーニング	○	4~5	56			○	千葉北総病 院CC実行委 員会	37.5		リニカルラーニング	○	5	(836)			37.5		
180	講師	トビタ ユウタロウ 飛田 悠太郎	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令4年5月	リニカルラーニング	○	4~5	56			○	医学教育 センター	37.5		リニカルラーニング	○	5	(33)			37.5		
181	講師	イカリ 剛 市川 剛	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令4年5月	リニカルラーニング	○	4~5	56			○	医学教育 センター	37.5		リニカルラーニング	○	5	(1034)			37.5		
182	講師	オノノ 直隆 芥澤 直隆	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 令6年5月	皮膚科学	○	4	2			○	医学教育 センター	37.5		皮膚粘膜病態学	○	4	(169)			37.5		
183	講師	ハラ 義明 原 義明	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 平30年4月	救急と生体管理	○	4	3			○	千葉北総病 院CC実行委 員会	37.5		救急医学	○	4	(750)			37.5		
184	講師	ナカヤマ 亘 中嶋 亘	博士 (医学)	日本医科大学医学部講師 平24年10月	研究配属	○	3	2			○	研究配属実 行委員会	37.5		遺伝子制御学	○	3	(184)			37.5		
185	助教	オオニシ 知宏 大西 知宏	博士 (獣医学)	日本医科大学医学部助教 平10年10月	刺激受容と情報伝 達	○	2	6			○	SGJ実行 委員会	37.5		感覚情報科学	○	2	(122)			37.5		
186	助教	ハヤシ 明哲 早坂 明哲	博士 (ソフトウ ェア情報学)	日本医科大学医学部助教 平20年4月	医療情報科学・ データサイエンス 1	○	1	1			○	医学教育 センター	37.5		医療情報科学・ データサイエンス 1	○	1	(126)			37.5		
187	助教	フジタ 慧 藤田 慧	博士 (医学)	日本医科大学医学部助教 令4年11月	医学統合プログラ ム1	○	1	1			○	医学教育 センター	37.5		医学統合プログラ ム1	○	1	(18)			37.5		
188	助教	タカダ 英志 高田 英志	博士 (医学)	日本医科大学医学部助教 令3年4月	消化器	○	3	5			○	武蔵小形病 院CC実行委 員会	37.5		消化器外科学	○	3	(945)			37.5		
189	助教	コバヤシ 光希 小林 光希	学士 (医学)	日本医科大学医学部助教 令6年4月	リニカルラーニング	○	4~5	56			○	付島病院CC 実行委員会	37.5								37.5		
190	助教	オハラ 良規 小原 良規	学士 (医学)	日本医科大学医学部助教 平24年4月	リニカルラーニング	○	4~5	56			○	付島病院CC 実行委員会	37.5		リニカルラーニング	○	5	(370)			37.5		
191	助教	ヨシダ 啓記 吉田 啓記	学士 (医学)	日本医科大学医学部助教 令3年1月	リニカルラーニング	○	4~5	56			○	付島病院CC 実行委員会	37.5		リニカルラーニング	○	5	(318)			37.5		
192	助教	ヤマノ 正卓 山岡 正卓	学士 (医学)	日本医科大学医学部助教 令6年4月	リニカルラーニング	○	4~5	56			○	付島病院CC 実行委員会	37.5		-		0				37.5		
193	助教	カサノ 雅彦 加藤 雅彦	博士 (医学)	日本医科大学医学部助教 平23年4月	リニカルラーニング	○	4~5	56			○	付島病院CC 実行委員会	37.5		リニカルラーニング	○	5	(1952)			37.5		

194	助教	並里 大	博士 (医学)	日本医科大学医学部助教 令3年4月	麻酔・集中管理・ 疼痛制御	○	4	3			○	付属病院CC 実行委員会	37.5		疼痛制御麻酔科学	○	4	(779)				37.5		
195	助教	成重 リョウイチ	博士 (医学)	日本医科大学医学部助教 令6年4月	リニカクターシップ	○	4~5	56			○	付属病院CC 実行委員会	37.5											
196	助教	福泉 彩	博士 (医学)	日本医科大学医学部助教 令4年4月	呼吸器・感染・腫 瘍・乳腺	○	3	6			○	総合診療実 行委員会	37.5		呼吸器内科学	○	3	(206)					37.5	
197	助教	須崎 真	学士 (医学)	日本医科大学医学部助教 平25年4月	リニカクターシップ	○	4~5	56			○	付属病院CC 実行委員会	37.5		リニカクターシップ	○	5	(371)					37.5	
198	助教	蓮谷 博介	博士 (医学)	日本医科大学医学部助教 令6年4月	リニカクターシップ	○	4~5	56			○	付属病院CC 実行委員会	37.5		リニカクターシップ	○	5	(310)					37.5	
199	助教	荒川 裕祐	博士 (医学)	日本医科大学医学部助教 令5年10月	リニカクターシップ	○	4~5	56			○	武蔵小杉病 院CC実行委 員会	37.5		リニカクターシップ	○	5	(80)					37.5	
200	助教	番中 優美	学士 (医学)	日本医科大学医学部助教 令2年6月	リニカクターシップ	○	4~5	56			○	武蔵小杉病 院CC実行委 員会	37.5		リニカクターシップ	○	5	(33)					37.5	
201	助教	森野 日出男	博士 (医学)	日本医科大学医学部助教 平31年4月	リニカクターシップ	○	4~5	56			○	武蔵小杉病 院CC実行委 員会	37.5		リニカクターシップ	○	5	(559)					37.5	
202	助教	山崎 道生	学士 (医学)	日本医科大学医学部助教 平31年4月	リニカクターシップ	○	4~5	56			○	総合診療実 行委員会	37.5		リニカクターシップ	○	5	(146)					37.5	
203	助教	森田 肇	学士 (医学)	日本医科大学医学部助教 平19年6月	リニカクターシップ	○	4~5	56			○	多摩水山病 院CC実行委 員会	37.5		リニカクターシップ	○	5	(170)					37.5	
204	助教	藤野 雄大	学士 (医学)	日本医科大学医学部助教 平26年3月	リニカクターシップ	○	4~5	56			○	多摩水山病 院CC実行委 員会	37.5		リニカクターシップ	○	5	(372)					37.5	
205	助教	小林 由子	博士 (医学)	日本医科大学医学部助教 平27年10月	放射線医学	○	3	2			○	多摩水山病 院CC実行委 員会	37.5		臨床放射線医学	○	3	(2)					37.5	
206	助教	久野 将奈	博士 (医学)	日本医科大学医学部助教 平31年4月	救急と生体管理	○	4	3			○	多摩水山病 院CC実行委 員会	37.5		救急医学	○	4	(513)					37.5	
207	助教	戸田 諭輔	博士 (医学)	日本医科大学医学部助教 令1年10月	リニカクターシップ	○	4~5	56			○	千葉北総病 院CC実行委 員会	37.5		リニカクターシップ	○	5	(680)					37.5	
208	助教	新井 洋紀	博士 (医学)	日本医科大学医学部助教 令4年4月	消化器	○	3	5			○	千葉北総病 院CC実行委 員会	37.5		消化器外科学	○	3	(65)					37.5	
209	助教	栗原 理	博士 (医学)	日本医科大学医学部助教 平23年4月	リニカクターシップ	○	4~5	56			○	千葉北総病 院CC実行委 員会	37.5		リニカクターシップ	○	5	(794)					37.5	
210	助教	崔 祥大	学士 (医学)	日本医科大学医学部助教 令5年10月	リニカクターシップ	○	4~5	56			○	千葉北総病 院CC実行委 員会	37.5		リニカクターシップ	○	5	(32)					37.5	
211	助教	池田 剛	博士 (医学)	日本医科大学医学部助教 平31年4月	リニカクターシップ	○	4~5	56			○	千葉北総病 院CC実行委 員会	37.5		リニカクターシップ	○	5	(24)					37.5	
212	助教	青山 純一	博士 (医学)	日本医科大学医学部助教 令5年4月	リニカクターシップ	○	4~5	56			○	千葉北総病 院CC実行委 員会	37.5		リニカクターシップ	○	5	(88)					37.5	
213	助教	山田 直輝	学士 (医学)	日本医科大学医学部助教 令2年4月	リニカクターシップ	○	4~5	56			○	千葉北総病 院CC実行委 員会	37.5		リニカクターシップ	○	5	(628)					37.5	
214	助教	高林 直也	学士 (医学)	日本医科大学医学部助教 令3年7月	リニカクターシップ	○	4~5	56			○	千葉北総病 院CC実行委 員会	37.5		リニカクターシップ	○	5	(242)					37.5	
215	助教	竹内 雅彦	学士 (医学)	日本医科大学医学部助教 令6年1月	リニカクターシップ	○	4~5	56			○	千葉北総病 院CC実行委 員会	37.5											

